

令和元年度 事業報告書

2019 Business report



INDEX

I 令和元年度を振り返って	2
II 法人概要	3
沿革	3
評議員会・理事会	11
評議員・役員一覧	12
III 中長期経営計画	13
IV 事業管理	15
V 各施設事業執行状況	23
1. 特別養護老人ホーム美原荘	23
軽費老人ホーム(ケアハウス)和風荘	
特別養護老人ホーム美原荘「すごうの郷」	
2. 特別養護老人ホーム春日丘荘	25
特別養護老人ホーム春日丘荘「彩の家」	
3. 特別養護老人ホーム四條畷荘	27
養護老人ホーム四條畷荘	
4. 特別養護老人ホーム光明荘	29
5. 特別養護老人ホーム高槻荘	31
6. 特別養護老人ホーム白島荘	33
7. 東大阪養護老人ホーム	35
8. 豊中市立養護老人ホーム永寿園とよなか	37
特別養護老人ホーム永寿園とよなか	
9. 軽費老人ホーム(ケアハウス)豊寿荘	39
特別養護老人ホーム豊寿荘	
10. 軽費老人ホーム万寿荘	41
11. 軽費老人ホーム河南荘	42
12. 障がい者支援施設みずほおおぞら	43
特別養護老人ホームみずほおおぞら	
13. OSJ研修・研究センター	45
14. 事務局	46
VI 研修実施内容	47

令和元年度を振り返って

令和元年度は、「地域から必要とされ、地域から支えられる法人となるために」をテーマに、それぞれの地域におけるニーズを拾い上げ、制度では補えない新たなサービスを提供するとともに、地域包括ケアシステムの構築を積極的に推進し、当法人が地域においてその役割を果たしていくため、医療系のサービスの推進に注力し、和泉市における訪問看護事業の開設や、豊中市における介護老人保健施設等の開設準備を行いました。また、令和2年度末の竣工を目途とし、高槻荘大規模改修工事に着工し、ご利用者の安全安心を最優先にその工事の進捗を管理しました。

そして、人材確保については、正規職員比率の見直しを含めた給与制度の改正に取り組むとともに、介護福祉士養成校の開設準備と外国介護人材については、介護福祉士を目指す留学生、技能実習生の受け入れ体制の構築を進めることができました。

一方で、12月に中国武漢市で発生した新型コロナウイルスの世界的流行により、当法人に関わる全ての方の大切な命を守ることを第一に、法人の総力を結集して感染予防に万全を期し、地域の方々や関係機関のご協力を頂き、また、職員全員の懸命な努力により法人内において感染被害を受けることなく今日を迎えています。

これら令和元年度の様々な取り組みと経験が、これから当法人が社会福祉法人としての使命を果たし、持続可能な経営に繋げられるものとして示すことができるよう、この事業報告をまとめました。

結びに、今年度の当法人の事業推進にご尽力を賜りました全ての皆様に心より感謝申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を祈念致します。

社会福祉法人大阪府社会福祉事業団

理事長 行松 英明

法人概要

1. 沿革

- 昭和46年 3月11日 社会福祉法人大阪府社会福祉事業団設立発起人会開催
大阪府民生部長畑中豊作氏を設立代表者に互選、設立準備に入る。
設立認可申請書を厚生大臣に提出
役員定数を理事「9名」監事「2名」とする。
- 昭和46年 3月25日 厚生省社第204号をもって認可される。
- 昭和46年 3月30日 設立登記完了
第1回理事会開催
初代理事長に大阪府副知事湯川宏氏が就任
- 昭和46年 4月 1日 特別養護老人ホーム泉南特別養護老人ホーム(入所定員100名)、養護老人ホーム東大阪養護老人ホーム(入所定員150名)、軽費老人ホーム和風荘(入所定員70名)、同豊寿荘(入所定員100名)、婦人保護施設たまたも寮(入所定員55名)、同あかね寮(入所定員50名)、精神薄弱者授産施設大東園(通所定員50名)の7施設の受託経営
軽費老人ホーム使用料収納事務の受託
- 昭和46年 5月17日 初代理事長湯川宏氏退任
- 昭和46年 5月18日 二代理事長畑中豊作氏就任
- 昭和46年 5月20日 軽費老人ホーム万寿荘(入所定員50名)の受託経営
- 昭和47年 5月26日 第二種社会福祉事業「医療社会福祉事業振興対策資金の貸付事業」の受託運営
- 昭和48年 4月 1日 補助金方式を委託料方式に改める。
精神薄弱者授産施設大東園の通所定員「50名」を「60名」に増員
- 昭和48年 8月 1日 附帯的公益事業「老人福祉指導センター事業」の受託運営
- 昭和49年 7月24日 老人福祉指導センター事業の中に「老人機能回復訓練指導員養成事業」の追加受託
- 昭和50年 4月 1日 軽費老人ホーム河南荘(入所定員100名)の受託経営
- 昭和50年10月 1日 泉南特別養護老人ホームにおいて「在宅老人機能回復訓練事業」の実施
- 昭和51年 3月31日 二代理事長畑中豊作氏退任
- 昭和51年 4月 1日 三代理事長大阪府民生部長榎居孝氏就任
- 昭和51年 7月31日 三代理事長榎居孝氏退任
- 昭和51年 8月 1日 四代理事長浅海浩氏就任
- 昭和52年 7月 1日 特別養護老人ホーム美原荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和52年10月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和53年 7月 1日 精神薄弱者授産施設白鷺園(通所定員50名)の受託経営
- 昭和53年 8月 1日 特別養護老人ホームにおける「ねたきり老人短期入所事業」の実施
- 昭和53年11月18日 特別養護老人ホーム四条畷荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和54年 2月 1日 第二種社会福祉事業「老人総合センター」の受託経営
- 昭和54年 3月31日 附帯的公益事業「老人福祉指導センター事業」を老人総合センターに移管し廃止
- 昭和54年 6月19日 四代理事長浅海浩氏退任
- 昭和54年 6月20日 五代理事長板東義雄氏就任
- 昭和55年 3月 1日 特別養護老人ホーム光明荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和56年 4月 1日 役員定数、理事「9名」を「11名」とする。
附帯的公益事業「社会福祉会館」の受託経営
精神薄弱者授産施設白鷺園の通所定員「50名」を「60名」に増員
- 昭和56年12月31日 婦人保護施設あかね寮(入所定員50名)の廃止

- 昭和57年 2月 1日 特別養護老人ホーム高槻荘(入所定員100名)の受託経営
- 昭和57年 6月 1日 五代理事長板東義雄氏退任
六代理事長福田順一氏就任
- 昭和60年 4月 1日 特別養護老人ホーム白鳥荘(入所定員90名)の受託経営
- 昭和62年 6月15日 六代理事長福田順一氏退任
- 昭和62年 6月16日 七代理事長山中治氏就任
- 昭和63年 2月 1日 事業の経営を「大阪府の委託を受けて」を「大阪府等の委託を受けて」に定款変更
- 昭和63年 3月 1日 高槻市から第二種社会福祉事業高槻市老人デイサービスセンターの受託経営
- 平成 2年 3月31日 「老人総合センター」の受託経営廃止
- 平成 2年10月 1日 特別養護老人ホーム光明荘において「家庭奉仕員派遣事業」の実施
- 平成 3年 5月24日 七代理事長山中治氏退任
- 平成 3年 5月25日 八代理事長竹内壮彦氏就任
- 平成 3年11月 1日 婦人保護施設たまたも寮において「婦人保護施設退所者自立支援事業」の実施
- 平成 3年12月 1日 高槻市老人デイサービスセンターにおいて「高槻市ホームヘルプサービス事業」の実施
- 平成 4年 4月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「虚弱老人短期入所事業」の実施
- 平成 4年 6月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「老人入浴サービス事業」の実施
- 平成 4年 7月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において「茨木市ホームヘルプサービス事業」の実施
- 平成 4年 7月15日 高槻市郡家老人デイサービスセンターにおいて「在宅サービス供給ステーション事業」及び「在宅介護支援センター運営事業」の実施
- 平成 5年 4月15日 高槻市郡家老人デイサービスセンター「B型からA型」に移行に伴う「訪問事業」「配食サービス事業」の実施
- 平成 6年 1月 1日 高槻市郡家老人デイサービスセンターにおいて「高槻市身体障害者デイサービス事業」の実施
- 平成 6年10月 1日 特別養護老人ホーム光明荘において「光明荘老人デイサービスセンター」、「和泉市在宅サービス供給ステーション事業」及び「和泉市在宅介護支援センター事業」の受託経営(身体障害者デイサービスも含む)
- 平成 7年10月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「勤労意欲助長事業」の実施
- 平成 8年 3月14日 特別養護老人ホーム高槻荘において「高槻市身体障害者短期入所事業」の実施
- 平成 8年 3月31日 八代理事長竹内壮彦氏退任
- 平成 8年 4月 1日 九代理事長永井貞三郎氏就任
- 平成 8年 5月27日 役員定数、理事「11名」を「13名」とする。
- 平成 8年10月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町ホームヘルプサービス事業」の実施
- 平成 9年 3月31日 婦人保護施設たまたも寮受託経営廃止
- 平成 9年 4月 1日 婦人保護施設「女性自立支援センター」(入所定員150名)の受託経営
茨木市より第二種社会福祉事業「茨木市立老人福祉センター沢池荘」「茨木市立沢池老人デイサービスセンター」の受託経営
- 平成 9年 4月21日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町在宅介護支援センター事業」の受託経営
- 平成 9年 7月 1日 泉南市より第二種社会福祉事業「泉南市立老人デイサービスセンター」の受託経営
- 平成10年 3月31日 九代理事長永井貞三郎氏退任

- 平成10年 4月 1日 十代理事長 家常恵氏就任
軽費老人ホーム和風荘をケアハウスに建て替えケアハウス和風荘として受託経営
茨木市立沢池老人デイサービスセンターにおける「ホリデイサービス事業並びに時間延長事業」の実施
特別養護老人ホーム美原荘・春日丘荘における「24 時間対応（巡回型）ホームヘルパー派遣事業」の実施
特別養護老人ホーム美原荘において「ナイトケア事業及び父子家庭介護人派遣事業」の実施
特別養護老人ホーム光明荘において「和泉市身体障害者短期入所事業」の実施
特別養護老人ホーム四条畷荘において「福祉自動車送迎サービス事業」の実施
- 平成10年 6月15日 高槻市郡家老人デイサービスセンターにおいて「訪問看護ステーション事業」の実施
- 平成10年10月 1日 泉南特別養護老人ホームにおいて「泉南市在宅介護支援センター事業」の実施
- 平成11年 5月 7日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町給食サービス事業」の実施
- 平成11年 9月 1日 泉南特別養護老人ホームにおいて「社会生活適応訓練事業」の実施
- 平成11年10月 1日 11の居宅介護支援事業所において「要介護訪問調査事業」の実施
- 平成12年 1月 6日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町老人デイサービス事業」の実施
- 平成12年 3月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において「老人デイサービスセンター事業」「配食サービス事業」の実施
- 平成12年 3月31日 知的障害者授産施設大東園・白鷺園の受託経営廃止
十代理事長 家常恵氏退任
- 平成12年 4月 1日 介護老人福祉施設、短期入所生活介護、訪問介護、訪問入浴、通所介護、訪問看護事業における32介護保険事業所の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム春日丘荘において「春日丘荘在宅介護支援センター事業」の実施
- 平成12年 4月13日 十一代理事長 興津進康氏就任
- 平成12年 5月 1日 特別養護老人ホーム白島荘において「配食サービス事業」の実施
- 平成12年 6月22日 特別養護老人ホーム美原荘において「高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業」の実施
- 平成13年 3月15日 特別養護老人ホーム四条畷荘において「配食サービス事業」の実施
- 平成13年10月 1日 女性自立支援センターにおいて「堺市知的障害者地域生活援助事業」の実施
- 平成14年 3月 1日 特別養護老人ホーム白島荘において痴呆対応型共同生活介護の指定を受け事業実施
- 平成14年 3月29日 事業団出資額 40,000,000 円を加え、基本金を 50,000,000 円とする。
- 平成14年 3月31日 大阪府立施設の条例改正により6特養、1軽費の受託経営廃止
泉南特別養護老人ホームの施設廃止、及び、これに伴い、介護老人福祉施設、短期入所生活介護、通所介護、訪問介護、居宅介護支援（2ヶ所）の事業の廃止
特別養護老人ホーム高槻荘における訪問看護事業の廃止
- 平成14年 4月 1日 役員定数、理事「13名」を「9名」とする。
特別養護老人ホーム美原荘、特別養護老人ホーム春日丘荘、特別養護老人ホーム四条畷荘、特別養護老人ホーム光明荘、特別養護老人ホーム高槻荘、特別養護老人ホーム白島荘、軽費老人ホーム（ケアハウス）和風荘の設置経営の為、土地及び建物を大阪府から無償譲渡を受け、自主運営を開始する。
高槻市立郡家老人デイサービスセンターにおいて「精神障害者居宅介護事業」の実施
- 平成14年 8月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「精神障害者居宅介護事業」の実施

- 平成15年 4月 1日 短期入所、居宅介護、デイサービス、地域生活援助における15支援費事業所の指定を受け事業実施
高槻荘郡家デイサービスセンターの建物を高槻市から無償譲渡を受け、大阪府より同施設の土地を購入
特別養護老人ホーム春日丘荘において痴呆対応型共同生活介護の指定を受け事業実施
- 平成15年 7月 1日 特別養護老人ホーム高槻荘において福祉用具貸与事業の指定を受け事業実施
- 平成16年 2月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて訪問介護事業の指定を受け事業実施
- 平成16年 4月 1日 軽費老人ホーム豊寿荘の土地及び建物を大阪府から無償譲渡を受け、自主運営を開始する。
茨木市立南茨木老人デイサービスセンターにおいて「老人デイサービスセンター事業」「配食サービス事業」の実施
南茨木居宅介護支援事業所において居宅介護支援事業の指定を受け事業実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「老人デイサービスセンター事業」「知的障害者デイサービス事業」の実施
特別養護老人ホーム6施設、養護老人ホーム1施設、軽費老人ホーム3施設の計10施設において社会貢献事業実施
- 平成16年12月 1日 特別養護老人ホーム高槻荘において訪問介護員養成研修事業の許可を受け事業実施
- 平成17年 3月31日 女性自立支援センターにおいて堺市知的障害者地域生活援助事業の廃止
大阪府医療社会福祉事業振興対策資金借入金利子補助事業の廃止
十一代理事長 興津進康氏退任
- 平成17年 4月 1日 東大阪養護老人ホーム及び軽費老人ホーム万寿荘、軽費老人ホーム河南荘の土地及び建物を大阪府から無償譲渡を受け、自主運営を開始する。
十二代理事長 中村幹雄氏就任
- 平成17年 5月 1日 四条畷荘訪問介護事業所「ヘルパーステーションほほえみ」において「身体障害者」「知的障害者」「障害児」訪問介護事業実施
豊寿荘訪問介護事業所「ゆたか」において「精神障害者居宅介護等事業」の実施
- 平成17年 7月 1日 軽費老人ホーム豊寿荘をケアハウスに建て替えケアハウス豊寿荘として事業実施
- 平成17年10月 1日 軽費老人ホーム（ケアハウス）豊寿荘において特定施設入居者生活介護事業実施
- 平成18年 3月 1日 軽費老人ホーム（ケアハウス）和風荘において特定施設入居者生活介護事業実施
- 平成18年 3月31日 大阪府立女性自立支援センター事業運営終了
大阪府社会福祉会館の会館運営終了
- 平成18年 4月 1日 特別養護老人ホーム「豊寿荘」（入所定員50名）事業実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「短期入所生活介護事業」の実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「通所介護事業」の実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「診療所ゆたか」の開設
特別養護老人ホーム四條畷荘において地域包括支援センター事業の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム光明荘において地域包括支援センター事業の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム高槻荘において地域包括支援センター事業の指定を受け事業実施
白島荘グループホーム「華の家」において「短期利用共同生活介護事業」の実施
美原荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
四條畷荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
光明荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施

- 平成18年 4月 1日 白島荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
短期入所生活介護、訪問介護、訪問入浴、通所介護、特定施設入居者生活介護、福祉用具貸与事業における24介護予防事業所の指定を受け事業実施
- 平成18年 6月 1日 東大阪養護老人ホーム訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
豊寿荘デイサービスセンター「ゆたか」において「介護予防通所介護事業」の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「介護予防短期入所生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成18年 9月30日 光明荘デイサービスセンターにおいて実施していた「介護予防通所介護事業」の廃止
美原荘、四條畷荘、高槻荘、豊寿荘において実施していた障害福祉サービス事業「外出介護事業」の廃止
- 平成18年10月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業」「外部サービス利用型介護予防特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
美原荘、春日丘荘、四條畷荘、光明荘、高槻荘、豊寿荘の訪問介護事業所にて障害福祉サービス「重度訪問介護」の指定を受け事業実施
光明荘デイサービスセンターにおいて「障害福祉サービス基準該当生活介護事業」の実施
美原荘訪問介護事業所において「地域生活支援事業移動支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成19年 3月 1日 白島荘グループホーム「華の家」において「認知症対応型通所介護事業」「介護予防認知症対応型通所介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成19年 3月31日 特別養護老人ホーム美原荘における「訪問入浴事業」の廃止
美原荘、光明荘、光明の郷ケアセンターにおける「障害者デイサービス事業」の廃止
- 平成19年 4月 1日 美原荘デイサービスセンターにおいて「障害福祉サービス基準該当生活介護事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「障害福祉サービス基準該当生活介護事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「地域活動支援センター事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「入浴サービス事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「日中一時支援事業」の実施
- 平成19年 6月 1日 春日丘荘ヘルパーステーションにおいて「産前・産後ホームヘルパー事業」の実施
- 平成19年11月26日 特別養護老人ホーム四條畷荘竣工
- 平成20年 1月 1日 特別養護老人ホーム四條畷荘において「通所介護事業」の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム四條畷荘において「四條畷荘診療所」の開設
- 平成20年 2月 1日 養護老人ホーム四條畷荘(入所定員50名)事業実施
養護老人ホーム四條畷荘において「外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成20年 3月31日 高槻荘における障害福祉サービス「経過的デイサービス事業」の廃止
- 平成20年 4月 1日 箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「白島荘小規模多機能型居宅介護事業所「ひねもす」」の指定を受け事業実施
- 平成20年 8月 1日 軽費老人ホーム(ケアハウス)豊寿荘において「介護予防特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成21年 3月31日 特別養護老人ホーム白島荘における「配食サービス事業」の廃止
- 平成21年 4月 1日 万寿荘において池田市立敬老会館での「老人福祉センター事業」の指定管理者の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム春日丘荘において「地域包括支援センター事業」の指定を受け事業実施

- 平成22年 3月15日 特別養護老人ホーム春日丘荘リニューアルオープン
- 平成22年 3月31日 特別養護老人ホーム美原荘における「配食サービス事業」の廃止
十二代理事長 中村幹雄氏退任
- 平成22年 4月 1日 十三代理事長 高木哲夫氏就任
- 平成22年 5月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において保険診療の開始
高槻荘において「認知症対応型通所介護事業」「介護予防認知症対応型通所事業」の指定を受け事業実施
- 平成22年 6月 1日 春日丘荘グループホームにおいて「介護予防認知症対応型共同生活介護事業」「認知症対応型通所介護事業」「介護予防認知症対応型通所介護事業」の指定を受け事業実施
春日丘荘ヘルパーステーションにおいて「茨木市高齢者ごいっしょサービス事業」実施
- 平成22年 9月 1日 特別養護老人ホーム美原荘、ケアハウス和風荘リニューアルオープン
特別養護老人ホーム美原荘において保険診療所の開設
- 平成23年 3月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業」、「短期入所生活介護事業」、「小規模多機能型居宅介護事業」、「認知症対応型通所介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成23年 4月 1日 堺市において堺市立北老人福祉センター、東老人福祉センター、堺市立美原総合福祉会館・美原老人福祉センターの指定管理者の指定を受け事業実施
- 平成23年 4月30日 高槻荘における「福祉用具貸与・介護予防福祉用具貸与事業」の廃止
- 平成24年 3月31日 美原荘における「在宅介護支援センター運営事業」の廃止
東大阪養護老人ホームにおける「居宅介護支援事業」の廃止
- 平成24年 4月 1日 美原荘において、「地域包括支援センター事業」の指定を受け事業実施
- 平成24年 4月 2日 東大阪養護老人ホーム移転先土地の購入
- 平成24年 8月 1日 光明荘デイサービスセンター、在宅サービス棟リニューアルオープン
- 平成24年 9月21日 大阪府よりサービス管理責任者等研修事業者の指定を受け事業実施
- 平成24年10月 1日 美原荘において「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」の指定を受け事業実施
- 平成25年 1月15日 特別養護老人ホーム永寿園とよなか新築工事の竣工
- 平成25年 2月 8日 特別養護老人ホーム白島荘建替え等工事着工
- 平成25年 3月 1日 永寿園とよなかにおいて「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業」「通所介護事業」「短期入所生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成25年 3月27日 基本金の一部10,000,000円を大阪府へ返還し、基本金40,000,000円とする。
- 平成25年 3月31日 特別養護老人ホーム光明荘リニューアル工事の竣工
- 平成25年 4月 1日 豊中市立養護老人ホーム永寿園とよなかの指定管理者の指定を受け事業実施及び「外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
春日丘荘において茨木市立老人福祉センター南茨木荘、茨木市立老人福祉センター桑田荘での老人福祉センター事業の指定管理者の指定を受け事業実施
大阪府より介護員養成研修(介護職員初任者研修課程)事業者の指定を受け事業実施
- 平成25年 7月17日 大阪府より相談支援従事者(初任者及び現任者)研修事業者の指定を受け事業実施
- 平成25年10月31日 東大阪養護老人ホーム建替え工事の竣工
- 平成25年12月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「通所介護事業」の指定を受け事業実施

- 平成26年 2月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「居宅介護支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成26年 7月31日 特別養護老人ホーム白鳥荘建替え等工事の竣工
- 平成26年 8月 1日 OSJ工房よりそいの丘において「就労継続支援A型事業」及び「就労継続支援B型事業」の指定を受け事業実施
- 平成26年 8月 5日 法人事務局を大阪市中央区から箕面市に移転
OSJ研修・研究センター設立
- 平成26年10月20日 高槻市において高槻荘地域密着型サービス施設新築等工事の着工
堺市において、地域密着型特別養護老人ホーム(仮称)すごう新築工事の着工
- 平成26年12月 1日 白鳥荘において「計画相談支援事業」及び「障害児相談支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年 2月13日 万寿荘における「居宅介護支援事業」の廃止
- 平成27年 4月 1日 茨木市において、沢池多世代交流センター、南茨木多世代交流センターの指定管理の指定を受け事業実施
みずほ・おおぞらにおいて、「生活介護事業」、「就労継続支援B型事業」、「短期入所事業」、「日中一時支援事業」、「計画相談支援事業」、「地域移行支援事業」、「地域定着支援事業」、「障害児相談支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年 7月24日 高槻市において高槻荘地域密着型サービス施設新築等工事の竣工
- 平成27年 8月 1日 高槻荘において、「小規模多機能型居宅介護事業」及び「認知症対応型共同生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年 9月15日 堺市において、地域密着型特別養護老人ホーム(仮称)すごう新築工事の竣工
- 平成27年 9月28日 四條畷荘において「四條畷荘いっぶくステーション『よろか』」を開始
- 平成27年10月 1日 四條畷荘において「短期入所事業」の指定を受け事業実施
美原荘において、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業」、「短期入所生活介護事業」、「認知症対応型共同生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年10月 5日 豊中市において、障がい者、高齢者福祉サービス施設(仮称)みずほおおぞら園新築工事の着工
- 平成27年11月 1日 豊寿荘において、新千里東町に「居宅介護支援事業」「訪問介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年12月 1日 豊寿荘において、新千里東町で「あいあい食堂」を開始
- 平成27年12月31日 永寿園とよなかにおいて、「老人デイサービス事業」を廃止
- 平成28年 4月 1日 豊寿荘において、原田介護予防センター、服部介護予防センターの事業を実施するとともに、各介護予防センター内において、「通所介護事業」の指定を受け事業実施
東大阪養護老人ホームにおいて、「地域包括支援センター事業」の指定を受け事業実施
OSJ工房よりそいの丘において、「特定相談支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成28年 8月 1日 みずほおおぞらにおいて、「施設入所支援事業」、「就労継続支援A型事業」の指定を受け事業を実施、また、島江町「生活介護事業」、「就労継続支援B型事業」、「計画相談支援事業」、「地域移行支援事業」、「地域定着支援事業」、「障害児相談支援事業」を、また、稲津町から「短期入所事業」、「日中一時支援事業」、を同所に移転
- 平成28年 9月 1日 みずほおおぞらにおいて、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業」、「短期入所生活介護事業」の指定を受け事業実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて、「生活介護事業」の指定を受け事業実施
河南荘において「福祉有償運送事業」の実施
- 平成28年12月 1日 永寿園とよなかにおいて「企業主導型保育事業」の実施

- 平成29年 3月31日 十三代理事長 高木哲夫氏退任
- 平成29年 4月 1日 十四代理事長 行松英明氏就任
役員定数、理事「9名」を「6名」とする。
豊寿荘において、千里介護予防センター、柴原介護予防センター、庄内介護予防センターの事業実施
豊寿荘において、原田介護予防センター内で「居宅介護支援事業」の指定を受け事業実施
みずほおおぞらにおいて、豊中市から「生活介護事業」を引き継ぎ事業実施
- 平成29年 5月 1日 光明荘において、「認知症機能強化型地域包括支援センター」の委託を受け事業実施
- 平成29年10月 1日 OSJ工房よりそいの丘において、「委託相談支援事業」の委託を受け事業実施
- 平成29年11月 1日 豊寿荘において、原田介護予防センター内で「通所型サービスA」の指定を受け事業実施
- 平成30年 3月 1日 豊寿荘において、原田介護予防センター内で「企業主導型保育事業」の実施
- 平成30年 8月 1日 診療所ゆたかにおいて、「訪問リハビリテーション事業」の指定を受け事業実施
- 平成30年 9月 1日 豊寿荘訪問介護事業所「ゆたか」並びに「ひがしまち」において、「移動支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成30年12月 1日 白鳥荘において、「移動支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成31年 1月 1日 春日丘荘において訪問型サービスA(緩和)の指定を受け、事業実施
- 平成31年 3月31日 高槻荘における、「訪問入浴介護」の事業を廃止。
- 平成31年 4月 1日 豊寿荘において、高川介護予防センターの事業実施
豊寿荘において、高川介護予防センター内で「通所介護」「通所介護相当」の指定を受け、事業実施
春日丘荘において玉櫛・水尾地域における「地域包括支援センター事業」の委託を受け事業実施
光明荘において「通所介護相当サービス」の指定を受け、事業実施
光明荘において「訪問介護相当サービス」の指定を受け、事業実施
白鳥荘において、「居宅介護(障がい)」「重度訪問介護(障がい)」の指定を受け、事業実施
- 令和 元年 5月 1日 白鳥荘において、箕面市立光明の郷ケアセンターにおける「日中一時支援」「入浴サービス事業」の事業を廃止
光明荘において「訪問看護」の指定を受け、事業実施
- 令和 元年10月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「居宅介護(障がい)」「重度訪問介護(障がい)」「移動支援」の指定を受け、事業実施
- 令和 元年10月18日 特別養護老人ホーム高槻荘のユニット型への建替え等工事の着工
- 令和 元年12月 1日 豊寿荘において、庄内介護予防センター内で「居宅介護支援」の指定を受け、事業実施
- 令和 2年 3月 1日 白鳥荘において箕面市立光明の郷ケアセンターにおける「共生型生活介護」の指定を受け、事業実施

2. 評議員会

回	開催年月日	出席者数	議案項目
1	令和元年6月26日	7名	第1号議案 理事の選任 第2号議案 監事の選任
2	令和元年8月9日	7名	第1号議案 定款の一部変更
3	令和2年3月5日	7名	第1号議案 介護福祉士養成施設の設立 第2号議案 専修学校の設立 第3号議案 日本語教育機関の設立 第4号議案 定款の一部変更 第5号議案 高槻荘大規模改修工事に伴う基本財産の処分

3. 理事会 定款第9条による理事会は、令和元年度中に次のとおり開催しました。

回	開催年月日	出席者数	議案項目
1	令和元年5月20日	6名	第1号議案 特別養護老人ホーム高槻荘大規模改修工事の入札手続き
2	令和元年6月11日	6名	第1号議案 平成30年度事業報告 第2号議案 平成30年度収入支出決算 第3号議案 評議員候補者の推薦 第4号議案 評議員選任・解任委員会の招集 第5号議案 理事候補者の推薦 第6号議案 監事候補者の推薦 第7号議案 評議員会の招集
3	令和元年6月26日	6名	第1号議案 理事長の選定 第2号議案 専務理事の選定 第3号議案 座位入浴槽等に係るリース契約締結
4	令和元年7月5日	6名	第1号議案 パーソナルコンピュータの売買等に係る契約
5	令和元年7月31日	6名	第1号議案 定款の一部変更 第2号議案 評議員会の決議の省略 第3号議案 職員の給与に関する規則の一部改正 第4号議案 職員就業規則の一部改正 第5号議案 契約職員就業規則の一部改正 第6号議案 パートタイマー・アルバイト就業規則の一部改正 第7号議案 常勤医師就業規則の一部改正 第8号議案 定年退職後の再雇用就業規則の一部改正 第9号議案 施設長の任免
6	令和元年8月20日	6名	第1号議案 特別養護老人ホーム高槻荘大規模改修工事の再入札手続き
7	令和元年9月6日	6名	第1号議案 公用車自動車保険契約締結 第2号議案 契約職員就業規則の一部改正 第3号議案 パートタイマー・アルバイト就業規則の一部改正
8	令和元年9月20日	6名	第1号議案 特別養護老人ホーム高槻荘大規模改修工事請負契約業者の決定 第2号議案 特別養護老人ホーム高槻荘大規模改修工事請負契約内容 第3号議案 令和元年度収入支出予算の補正 第4号議案 経理規程の一部改正 第5号議案 職員の給与に関する規則の一部改正 第6号議案 契約職員就業規則の一部改正 第7号議案 パートタイマー・アルバイト就業規則の一部改正 第8号議案 常勤医師就業規則の一部改正 第9号議案 定年退職後の再雇用就業規則の一部改正 第10号議案 処務規則の一部改正 第11号議案 施設長の任免
9	令和元年11月27日	6名	第1号議案 清拭タオル賃貸借契約の締結 第2号議案 電気需給契約の締結 第3号議案 自動車賃貸借契約の締結 第4号議案 寝具類賃貸借契約の締結 第5号議案 複合機賃貸借契約の締結 第6号議案 令和元年度収入支出予算の補正 第7号議案 経理規程の一部改正 第8号議案 外国介護人材確保の取り組み

回	開催年月日	出席者数	議案項目
10	令和元年12月20日	6名	第1号議案 (仮称)箕面市立ワークセンター小野原の指定管理者の公募への応募 第2号議案 給食業務委託に関する委託契約 第3号議案 自動車賃貸借契約の締結 第4号議案 給与・人事・勤怠システム導入に係るライセンス費用のリース契約 第5号議案 評議員候補者の推薦 第6号議案 評議員選任・解任委員会の招集
11	令和2年2月21日	6名	第1号議案 介護福祉士養成施設の設立 第2号議案 専修学校の設立 第3号議案 日本語教育機関の設立 第4号議案 定款の一部変更 第5号議案 高槻荘大規模改修工事に伴う基本財産の処分 第6号議案 定款施行細則の一部改正 第7号議案 給食業務委託に関する委託契約 第8号議案 職員就業規則の一部改正 第9号議案 職員の給与に関する規則の一部改正 第10号議案 職員の退職手当に関する規則の廃止及び同規則の制定 第11号議案 定年退職後の再雇用職員就業規則の一部改正 第12号議案 契約職員就業規則の一部改正 第13号議案 常勤医師就業規則の一部改正 第14号議案 パートタイマー・アルバイト就業規則の一部改正 第15号議案 常勤教育職員就業規則の制定 第16号議案 職員宿舎規程の一部改正 第17号議案 評議員会の決議の省略
12	令和2年3月27日	6名	第1号議案 令和元年度収入支出予算の補正 第2号議案 令和2年度事業計画 第3号議案 令和2年度収入支出予算 第4号議案 経理規程の一部改正 第5号議案 茨木市沢池多世代交流センター並びに茨木市南茨木多世代交流センターの管理に関する基本協定及び南茨木デイサービスセンターの行政財産賃貸借に係る契約書の締結 第6号議案 特別養護老人ホーム高槻荘大規模改修工事に伴う屋外付帯工事に係る工事請負契約の締結 第7号議案 「介護老人保健施設かがやき」に係る建物等譲渡契約の締結 第8号議案 「介護老人保健施設かがやき」に係る定期借地権設定契約の締結 第9号議案 職員の職の設置に関する規則の一部改正 第10号議案 公印管理規程の一部改正 第11号議案 文書規程の一部改正 第12号議案 役員賠償責任補償制度の加入 第13号議案 学校長の選任 第14号議案 OSJ介護員養成スクール学則の一部改正 第15号議案 評議員選任・解任委員の選任 第16号議案 施設長の任免 第17号議案 会長の委嘱 第18号議案 顧問の委嘱

4. 評議員一覧

委嘱名	氏名	委嘱名	氏名
評議員	田中 進	評議員	中谷 敬子
評議員	岩田 敏郎	評議員	飯田 哲司
評議員	新庄 桂子	評議員	関家 鉄一
評議員	関川 芳孝		

5. 役員一覧

委嘱名	氏名	委嘱名	氏名
理事	行松 英明	理事	山上 幸雄
理事	荒田 房生	理事	三谷 伸次郎
理事	高木 哲夫	監事	葭矢 忠
理事	佐藤 眞一	監事	武本 勝司

令和元年度事業報告書

中長期経営計画

1. 後期計画(平成28年度～令和元年度)

基本方針	基本計画
介護、生活支援サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の主体的な生活の実現(個別ケア推進等) ・食事サービスの充実(食事提供方法の見直し等) ・サービス内容の標準化(各種マニュアルの活用等) ・地域包括ケアシステムの推進 ・障がい福祉サービスの推進
専門性の高いケアの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの充実と新オレンジプランの推進 ・医療ケアの充実(診療所機能の充実、看取りケアの充実) ・リハビリテーションの充実(効果的なりハビリの実施)
経営基盤の安定に向けた取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修等についての年次計画の策定 ・経営目標、指針を明確にした健全経営の徹底、法人組織の強化 ・リスクマネジメント、危機管理体制の強化 ・人材確保、定着に向けた取り組みの推進
人材育成のための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・研修研究センター機能の強化(内部・外部研修、地域啓発、研究開発、情報提供の各機能強化) ・将来のキャリア目標が持てる職場環境作り(キャリアパスの活用促進、キャリア段位制度の導入) ・法人の運営を担う人材育成(幹部候補育成プログラム見直し等)
地域福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多様な福祉ニーズへの対応(アウトリーチ、障がい者支援、子育て支援) ・地域公益事業の推進(ニーズ把握と課題解決の取り組み) ・防災拠点としての機能強化(福祉避難所の運営見直し等)

2. 進捗状況の確認について

令和元年度に取り組んだ実施計画は合計38項目となり、その項目ごとに進捗状況の自己点検を行いました。その結果については以下のとおりです。

【令和元年度進捗状況一覧】

	A	B	C	D	合計
介護・生活支援サービスの充実	2	5	1	2	10
専門性の高いケアの提供	5	4	2	0	11
経営基盤の安定に向けた取り組みの推進	1	8	3	0	12
人材育成のための環境整備	2	0	0	0	2
地域福祉の推進	0	2	1	0	3
合計	10	19	7	2	38

(A:計画どおり進んでいる B:概ね計画どおり進んでいる C:やや遅れている D:遅れている)

3. 令和元年度における中長期経営計画の進捗状況について

令和元年度の実施計画の進捗状況については、Aの「計画どおり進んでいる」Bの「概ね計画どおり進んでいる」の割合が76%となりました。これらの取り組みについては、本報告書の「IV.事業管理」の部分で具体的に示しております。ここでは、C・Dの「やや遅れている・遅れている」と評価した主な項目について、以下のとおり報告いたします。

「介護、生活支援サービスの充実」については、地域包括ケアシステムの推進における住まいサービスの提供に係る、住み替えが必要な方に対する賃貸情報の提供や入居手続き支援、空き家を活用したサービスの検討について、これらを活用しての支援体制の確立や実際のサービス提供には至りませんでした。

「専門性の高いケアの提供」については、リハビリ機能の強化として訪問リハビリテーション事業所において、在宅における訪問リハビリを実施することとしておりましたが、通所介護事業所との連携構築のための取り組みを充実させるにとどまり実施に至りませんでした。

「経営基盤の安定に向けた取り組みの推進」については、法人組織を強化するため法令遵守のための指標に基づいた管理監督体制の強化を図ることとしておりましたが、既存の自主点検表の内容の見直しとそれに基づく監査の実施のみにとどまり、管理者等が日々の管理の中で様々な事象が発生した時に参考にできる指標の作成までには至りませんでしたので、来年度も引き続き取り組むこととしています。

「地域福祉の推進」については、災害発生時の地域住民の受け入れ体制について、福祉避難所における市町村との協議を行い、福祉避難所の運営開設マニュアルを見直すこととしておりましたが、取り組むことができませんでしたので来年度に持越して取り組むこととします。

事業管理

(1) 介護・生活支援サービスの充実

①利用者の自立支援の推進

●利用者に対する自立支援の取り組みとして、みずほおおぞらでは、事業団施設内の清掃や農作物作りを請負い、収穫した作物の販売も行いご利用者の地域参加並びに就労に向けての支援を行いました。豊中市立養護老人ホーム永寿園とよなかにおいては、小学校の下校見守り、施設前の清掃を実施しました。また、施設内で、イベント演劇(園児向け)や共有スペースの拭き掃除を担っていただき自立に向けた支援を行いました。



収穫した野菜



収穫した野菜をご利用者が販売する様子

②食事サービスの充実

●加齢等による嚥下機能の低下に伴い、食事形態の変更を余儀なくされたご利用者に対し、ご利用者個々の状態に応じた食事形態の提供並びに食事を満喫できるよう、煮物や揚げ物もソフトミートを用いてやわらか食のバリエーションを増やしました。

③新たな医療系サービスの開始

●医療と介護サービスを一体的に提供できる体制を整えるために、5月に光明荘において訪問看護事業を立ち上げ、在宅の終末期利用者を中心にサービス提供を行い、病院、居宅介護支援事業所等からの信用を得られることができました。また、介護老人保健施設及び通所リハビリテーションの翌年開設に向けて医療系スタッフの人員確保や研修を行いました。



光明荘訪問看護ステーション開所式

④障がい者福祉サービスの推進

●みずほおおぞらにおける、障がい者の地域移行に向けた取り組みとして、他法人が運営しているグループホームと意見交換を重ね、地域移行にあたっての情報シート「マイヒストリー」をグループホーム事業者と協同で作成し、グループホームへのスムーズな移行に向けた体制を構築しました。また、施設内においては地域移行に向けた日常生活訓練の積極的実施やマイヒストリーを踏まえた24時間シートの活用を進め、今年度は6名の方の地域移行を実現することができました。

●みずほおおぞらの就労継続支援A型において、食パンのブランド化を進め各施設におけるイベントや、豊中市駅前出店での販売など、多くの販路の拡大を行い、安定した収入を得ることができました。

●よりそいの丘において施設外就労に向け、チェックリストを用いて実習の成果を評価し、施設外への就労へと2名繋げることができました。また、平均工賃額を前年度比4千円向上することができました。

●若年性認知症のご利用者に対し、統一した支援並びに具体的な指導の実施を目的に個別の支援マニュアルを作成し、個人の特性に応じた指導を行うことができるようになりました。

(2) 専門性の高いケアの提供

①OSJ認知症ケア研究会の取り組み

●大阪大学とのOSJ認知症ケア研究会の成果として、日本老年行動研究学会第22回大阪大会において発表を行うとともに、事例集の編成のため昨年度よりもより多くの職種が参画し、認知症に対する様々な視点での議論・共有を行いました。



第22回日本老年行動研究学会での発表の様子

②常勤医師の新たな配置

●医療サービスの充実と看取りケアを推進するため、光明荘において常勤医師の配置を行いました。医師による的確な指示により、感染症の罹患率低減や体調不良のご利用者に対して速やかに対応を行うことができました。また、外部講師を招いて常勤医師向けの研修会を開催し、看取りケアに関する意見交換を行い知見を高めることができました。

(2) 専門性の高いケアの提供

③介護機器・介護ロボット等の活用

- 介護者にかかる心身の負担軽減及び、業務をサポートすることができる介護機器について、助成金を活用しての導入を進め、白島荘並びに四條畷荘においては移乗用リフトを導入することができました。

(3) 経営基盤の安定に向けた取り組みの推進

①コンサルティングを活用した新たな経営手法の確立

- 昨年度に導入をしたアメーバ経営を定着させるため、施設全事業所のリーダーが参加し、事業所ごとの当月の課題、月末見込み、次月の予定について議論する「エリア会議」を開催するとともに、事業所ごとに「部門会議」を行い、本来の目的である小集団組織による採算管理意識を高めるための取り組みを行いました。その結果、部門会議の中では、一人ひとりの「こうした方が良いのではないか」「予定をキャッチアップするなら、こういった取り組みを行うのはどうか」といった積極的な意見交換ができるようになりました。

②人材の確保のための取り組み

- 大阪府下6法人と連携し、OSAKA6SMILES (オサカックスマイルズ) と銘打った就職説明会や他法人が一堂に会するFACEtoFUKUSHI (フェイスツウカ) において、法人インターンシップへのエントリー及び法人採用試験の受験に繋がりました。



OSAKA6SMILESでの活動の様子



OSAKA6SMILESでの活動の様子

- 高校卒業生の採用のため、受け入れのための研修プログラムの策定を行うとともに、大阪府内25か所の高校にそのプログラムや事業団の魅力についてPRを行い、その結果2名の方に採用内定を出すことができました。
- 非正規職員の正規職員化を図り、また、同一労働同一賃金への対応のため、給与制度改正並びに就業規則の変更を行い、その結果として法人全体の正規職員比率を10%高めることができました。

(3) 経営基盤の安定に向けた取り組みの推進

- 外国人技能実習生等の受入れについての検討を進め、ベトナム、中国への視察を行うとともに、事務局に新たに外国人材雇用推進グループを創設し、2組合の監理団体との契約が成立し、3施設での受け入れ態勢の構築を進めることができました。



ベトナム視察



法人概要を説明する様子

(3) 経営基盤の安定に向けた取り組みの推進

③ 災害発生時のための体制強化

- 総合防災訓練時において、被災時のメールや電話が使用できなくなることを想定し、ビジネスチャットを用いて各施設の被災状況に応じ、職員の応援及び支援物資の支援等が速やかに行える体制づくりの訓練を実施しました。また、非常災害時の電源の確保のため、各施設及び事務局に非常用発電機を購入しその体制を強化しました。



法人総合防災訓練

④ 高槻荘大規模改修工事

- 高槻荘大規模改修工事については、9月に請負業者を決定し、10月から着工することができました。入居者が生活をされながらの工事であることから、着工前の説明会及び着工後の連絡及び配慮を行いながら、随時、安心・安全を第一に請負業者、工事監理業者と密接に調整し、着実に工事を進捗することができました。

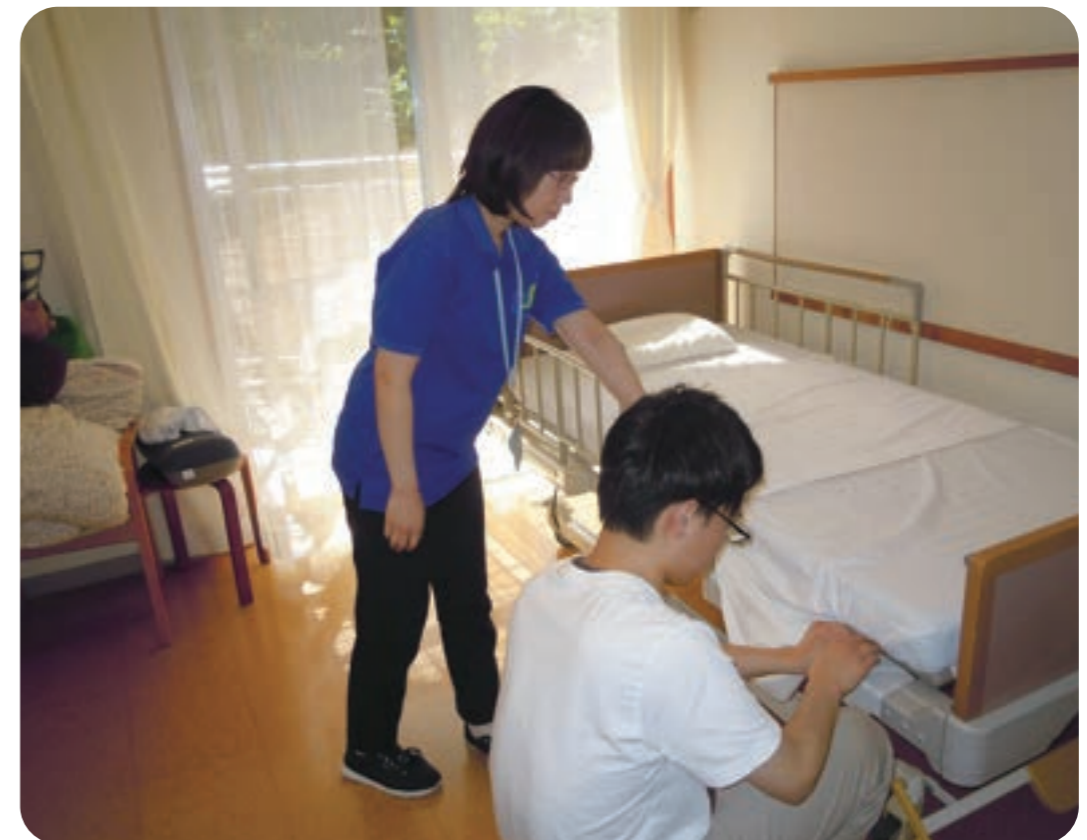


高槻荘大規模改修工事着工

(4) 人材育成のための環境整備

① 人材育成担当職員の取り組み

- 今まで各施設に配属していた人材育成担当職員について、OSJ研修・研究センターの専従所属とすることで、より効果的なフォローアップ体制による人材定着、実習生等に対するフォローや定期的な面談により、人材育成に繋がられる体制を構築しました。
- 新規採用職員の不安軽減と離職防止のため、業務への一定の習熟度をもってから独り立ちができるよう、スキルブックの活用と定期的な面談を行いながら習熟度を測り、施設の指導職員と連携し、安心できる指導体制を整備しました。



人材育成担当によるフォローアップの様子

② 専門的な研修技術の習得

- 障がいサービス事業所の職員に対して、外部機関のコンサルテーションの受け入れや国立重度知的障害者総合支援施設のぞみの園への研修に参加し、重度障がい者へのより専門的な支援方法を学ぶことが出来ました。

③ eラーニングへの取り組み

- 今までの研修体系を見直し、誰でもいつでも集わなくても研修が行える体制を構築するため、来年度以降にeラーニングによる研修受講が可能となる準備を進めました。

(5) 地域福祉の推進

① 地域における公益的な取り組みの推進

- 各施設において、地域の実態把握、生活課題分析を行ない、その地域課題に対して地域関係機関及び地域住民への支援目標を設定し、分野にとらわれない地域における公益的な取り組みを積極的に推進することができました。特筆すべき取り組みとして、春日丘荘周辺は坂道が多いことに加え、コンビニエンスストア等がないことから、加齢に伴い買い物に出かけることが難しくなるという地域課題を踏まえて、地域関係機関との協議を重ねた結果、施設車両を用いてのスーパーマーケットへの送迎を定期的を実施することができました。



かるがも号運航の様子

② 地域への研修機能の還元

- OSJ研修・研究センターにおいて、箕面市、豊中市、くすのき広域連合における生活支援サービス従事者研修を実施するとともに、介護に興味のある方や、介護業務にブランクのある方を対象に実施した介護ミニ講座については「暮らしに役立つ介護予防と健康」というテーマに、日常生活の中でも気軽に実践できる内容としたことで好評を得ました。



介護ミニ講座

③ 子どもの居場所づくりの取り組み

- 毎月第2土曜日に事務局と特別養護老人ホーム白鳥荘が協同で地域の子供を対象に『子どもわくわく体験』という体験学習型のイベントを定期開催しました。春にはオリジナルトートバッグ製作、夏にはスイカ割り・自由研究、秋にはしいたけの菌床栽培と収穫、冬にはクリスマスイルミネーション製作など季節に応じた体験学習を参加者とともに行いました。年間延べ400名程度の参加があり、回を重ねる毎に参加者が増える人気のイベントになりました。



子どもわくわく体験の様子



秋の収穫祭の様子

美原荘

「笑顔いきいき365日」



事業施行概要

「困った時の美原荘」と、地域のニーズに応える事業推進

特養・短期入所等緊急ケースの受け入れを積極的に行いました。
また、りんりんサポーターの2期生募集とりんりん食堂を実施しました。

ステップアップ事業

地域交流の推進と地域ニーズに応える事業推進

子ども食堂の実施に向け、小学校区のニーズや実施場所、子ども特化型と多世代交流型のどちらがより適しているのかを検討。

達成内容

「地域の助け合い」をコンセプトに、りんりん食堂を実施しました。また、りんりん食堂への子どもへの参加に向けて検討を行いました。

「すごうの郷」地域交流スペースでの喫茶開催(週1回)

達成内容

2つのボランティアグループの協力を得て、週1回実施できるようになりました。



重点項目

認知症ケアのさらなる充実

生活歴に着目し、個人の趣味嗜好に沿った、書道や貼り絵、折り紙等の製作や定期的なおやつ作りが好評を得る事ができ、利用者満足の向上とリピーター確保に繋がりました。

また、特定契約者全員のケアプランに個別アクティビティを設定、モニタリング時にMMSEとFAB、個別支援シート作成で認知症やADLの現状把握と再プラン化に役立てました。



地域包括システムの推進

見守りネットワーク連絡会及び高齢者関係者会議を通じて、地域資源の確認や、必要な情報を集約しました。集約した情報を見守りネットワーク連絡会にて提供しています。

利用者の自立支援の推進

介護システム内の、いつ・誰が・何に参加したかというデータを活用し個人の趣味・嗜好にあったアクティビティを選択して閉じこもり防止に役立てる方法が確立できました。

食事サービスの充実

食事形態の改善が必要と思われる利用者32名中25名の方が嚥下指導を受け、適切な食事形態に変更する事で、食事摂取量及び体重の維持・増加に繋がりました。

医療サービスの充実

看取りケアの指針の見直しや研修及び会議を実施し、各部署・職員の情報共有、ケアに対する考え方の統一を図ることが出来ました。

多様化する地域ニーズへの対応

令和元年5月より介護保険外サービスとして100件以上、庭の草刈りや大掃除等のニーズに対応しました。QOLの向上に向け、柔軟に対応できる体制を整備していきます。

福祉用具の提案・活用を勧める

車椅子移乗用のボードを活用し、移乗時の表皮剥離や内出血の防止、職員の介助量の軽減にも繋がりました。また褥瘡防止予防のエアマットも導入しています。



地域公益事業

地域の互助の醸成に向けた取り組み

りんりんサポーター2期生の募集及び事業説明会を実施しました。
また、認知症カフェでは社会復帰と就職を目指す若年者を支援する居場所として開放しています。



春日丘荘

その人が望む
暮らしの実現へ



事業施行概要

考えることができる職員の育成とサービスの質の向上

アメーバ経営会議等では職員一人ひとりが職場のためにどうしたらいいかということについて考えを出し合い、チームで考え行動出来ました。

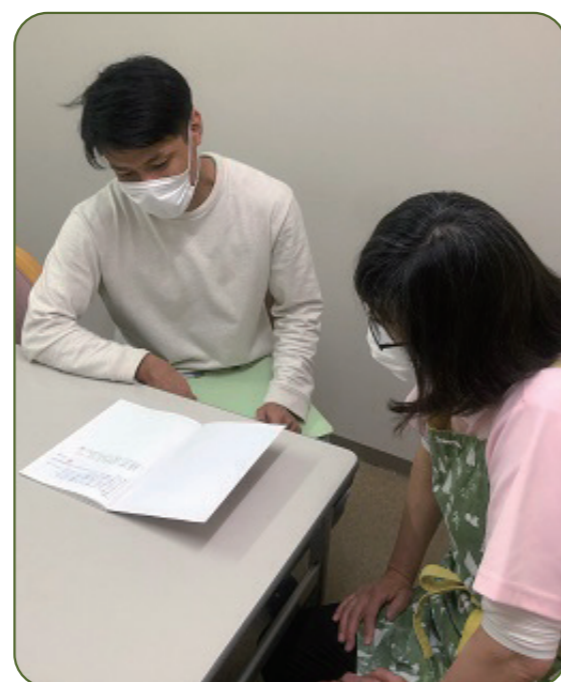
ステップアップ事業

人材定着につながるエルダー制の醸成について

悩み等の共有やアドバイスをエルダー制度を通し、職員内で相談しやすい環境を作ること、風通しの良い職場環境になりました。

達成内容

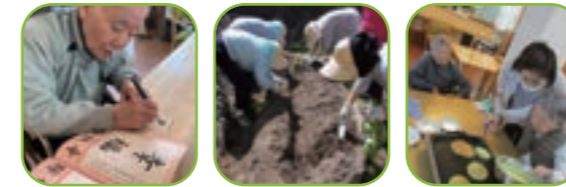
達成目標:70%
エルダー制を利用し、より多くの意見や提案がなされるようになりましたが、エルダー連絡ノートの活用が不十分である課題が残りました。



重点項目

利用者の自立支援の推進

ご利用者の個々の状態を再認識することで、個性の高いケアを実施することができました。



地域包括ケアシステムの推進

南圏域の地域包括支援センターでは、地域住民に信頼される総合相談窓口の基盤作りに励みました。訪問型サービスA養成研修を実施し、高齢者就労の一端を担いました。

専門性のある認知症ケアを目指して

認知症介護実践者研修・リーダー研修受講により、認知症に対する理解を深め、ご利用者個々の認知症状に対し、よりよい認知症ケアに努める事ができました。



医療サービスの充実

看取りケアについては、看取りを行った内容の振り返りを実施し、他の対象者に対して、より充足した対応ができるように努める事ができました。

リハビリ機能の強化

各通所介護事業所にて、自立支援・重度化防止の為、法人傘下の訪問リハと連携して、アウトカム評価の導入し一定の効果を得ることができました。

介護機器・介護ロボット等の活用

利用者が安心できる移乗と介護職員に優しい仕事環境を目指し、スライディングボード等を利用し、利用者の安心安全、介護職員の身体への負担の軽減に努める事ができました。



業務の効率化を図るための機器の活用

ITツールを利用し、データ化することで施設内外の情報共有スピードの強化に努める事ができました。ご利用者の情報を瞬時に大量に共有する方法の構築に努めました。

地域共生社会の実現に向けたネットワーク構築

担当圏域で増加する子育て世帯の貧困等課題において、中学校区セーフティネット会議を立ち上げ、CSWを事務局として子育て世帯への連携支援の基盤作りを進めました。

多様化する地域ニーズへの対応

茨木市の西圏域では子供の引きこもりや虐待問題に関して、小中学校や地域からの相談が増加している為、CSWを事務局に「子ども版セーフティネット」を立ち上げました。

災害発生時の備えのための取り組み

施設内の備蓄品の整備を実施し、災害発生時に施設入居者のみならず、地域の方々も支援できるような体制の一部構築することができました。

地域公益事業

住民主体の地域づくり支援

移動に関する地域課題がある為、買い物等の移動支援「かるがも号」の運行を開始。CSW、地域包括、デイ等各職種が協力し地域高齢者のお役に立つことができました。



四條畷荘

地域の皆様に信頼と安心を



事業施行概要

全ての期待に応えられるサービス提供を目指します

地域の社会資源として、地域住民に広く施設を開放し、利用していただくとともに、在宅サービスから施設での看取りケアまで幅広くサービスを提供しました。

ステップアップ事業

楽しくわかりやすく学べる研修体制の構築

施設内研修の資料を動画で作成し、施設内のパソコンを使用して、全職員がいつでも研修を受けることができる環境を作りました。

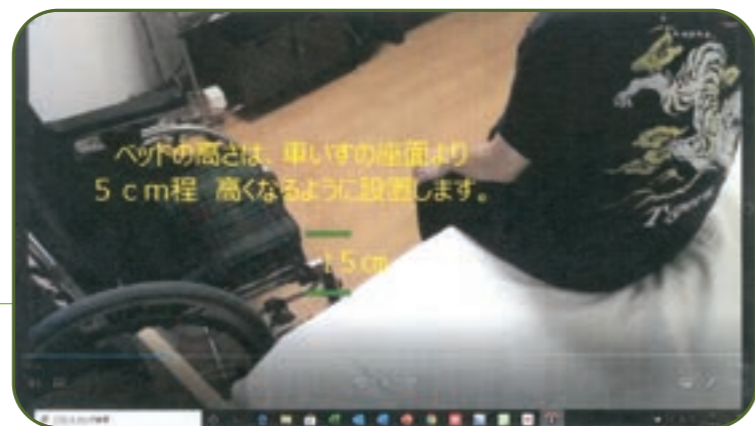
達成内容

法定研修他、介護機器の使用方法等の動画での研修資料を9つ作成し、新任職員向け研修に活用しました。

報告書の提出により未受講者がいないよう確認しました。

達成内容

研修復命書の提出を徹底し、受講状況を管理することができました。



重点項目

法人の魅力を発信するための取り組み

「ボランティア活動日記」や「荘長想いにふける」などブログコンテンツを増やし、月当たり平均1,200アクセス数を増やすことができました。



認知症ケアのさらなる充実

昨年度に引き続き、「ほっこりステーション『よろか』（認知症カフェ）」を定期開催し、延べ60名を超える方に参加していただきました。



介護機器・ロボットなどの活用

ご入居者の安心、ケアの標準化、職員の腰痛予防を目的に、移乗用リフトや腰補助用マッスルスーツ、超低床ベッドなどを導入し活用しました。



地域公益事業

「よろか」の機能分化と拡大

「ほっこりステーション『よろか』（認知症カフェ）」に加え、介護予防を目的とした住民主体の通いの場拠点を2か所、次年度に向けた組織作りに取り組むことができました。



光明荘

集う・寄り添う・満たされる



事業施行概要

集う・寄り添う・満たされる 「医療サービス充実の取り組み」

- 診療所に常勤医師が配属され、施設入居者の体調の変化や褥瘡リスクに迅速な対応ができました。また効果的な感染症対策を図ることができました。
- 令和元年5月に光明荘訪問看護ステーションを開設することができ、年度末までに43件の依頼に対応しました。終末期ケアの依頼も多く、13件に携わることができました。

ステップアップ事業

訪問看護事業の安定にむけて

光明荘訪問看護ステーションを地域の住民の皆さまに知っていただき、光明荘の一員として地域に必要とされる事業所を目指すため、地域の集まりに積極的に参加していきます。

達成内容

和泉市の保健事業「いずみまちの保健室」に参加し、健康相談を実施しました。また、居宅介護支援事業所主催の介護相談会に参加し、地域との関わりを積極的に行いました。



訪問看護事業所として、地域の医療機関、保健機関、介護サービス事業者、他の訪問看護事業所と連携をはかり、信頼される事業所を目指します。

達成内容

近隣3市1町の訪問看護連絡会にて情報を収集し、地域医療機関等に訪問を重ねて連携を深めました。その結果、毎月4～5件の新規利用の依頼を受けています。

重点項目

地域包括ケアシステムの推進

特養相談員を中心に、和泉市・堺市の施設や病院等の相談員の交流会を開催しました。各事業所の特色を情報交換し、スムーズな連携がとれるネットワークづくりができました。

地域包括支援センターでは、圏域内のコンビニ・郵便局等を中心に啓発を行い、「高齢者見守り協力事業所ネットワーク事業」の2年度スタートへとつなげることができました。

居宅介護支援事業所では、地域における介護支援専門員のスキルアップを図る為、他居宅介護支援事業所と協働し、「医療連携」を主軸とした研修会や勉強会等を開催しました。

食事サービスの充実

①ご利用者の食事時間に合わせて、せせらぎ棟の早出職員の勤務時間を変更したことで、ゆとりを持ってお食事を召し上げて頂ける環境が整いました。

②口腔ケアに課題があるご利用者や食事時の姿勢が崩れやすいご利用者をピックアップし、各棟で食事係が中心となって、ケアの方法を検討、改善を図りました。

③介護口腔ケア推進士有資格者による研修を2回実施し、口腔ケアの重要性や、正しい方法について職員に発信しました。



地域公益事業

地域に根差した施設を目指して

第三の居場所「光明ん家〜絆〜」の開催は、地域の子供の参加はなかったものの、年度末には職員の子供の参加が複数ありました。

地域の防災会議に参加し、自治会役員と来年度の防災訓練への協力や福祉避難所としての役割を話し合いました。感染症対応のため、3月の防災訓練は中止となっています。



高槻荘

新生高槻荘



事業施行概要

大規模改修に向けての取り組み

- 令和元年10月より始まった大規模改修工事について、説明会の開催や資料の掲示、送付及びホームページを活用するなど、関係者への工事進捗の見える化を図りました。
- 特別養護老人ホームにおいて、施設替えを希望された2名の利用者については、調整を行い、スムーズに転居していただくことができました。

ステップアップ事業

誰もが活躍できる地域社会に向けた取り組み

地域住民向けに各種講座や説明会を開催し、活動的に生活ができる環境を提案します。

達成内容

地域住民向けの福祉基礎講座を7回開催し、延べ209名が参加されました。

介護予防教室で、ボランティア活動の重要性及び内容を説明し、賛同された39名が高槻荘サポーターとして登録を行い、そのうち1名が高槻荘に就労されました。



重点項目

認知症ケアのさらなる充実

法人の認知症ケア研究会へ定期的に参加し、認知症専門医の治療方針を踏まえた事例検討にて、適切な認知症ケアの知識を深め、その内容を実践しました。

大阪大学との共同研究による認知症ケアの実践成果を日本老年行動科学会にて発表し、一定の評価をいただくことができました。



介護機器・介護ロボット等の活用

新たに見守り支援システムを導入し、さらに利用者や家族の安心、安全につながるサービスができるようになりました。

機能訓練指導員が中心となり、リフト利用者のモニタリングを行い、介護リフトの使用マニュアルを作成するとともに、多くの職員が活用できるようになりました。

災害発生時の備えのための取り組み

高槻市市民防災行動目標における防災に係るステークホルダーとしての役割を確認し、備蓄品目や数を再検討し、福祉避難所も含めた災害時の献立作成を行いました。

各事業所の利用者の家族構成や生活状況から、発災時対応名簿を緊急度別に整備し、迅速で的確な対応ができるよう取り組みました。

多様化する地域ニーズへの対応

特別養護老人ホームにおいて、協力病院と協議を重ね、看取り介護マニュアルを整備し、3名の看取りを行うことができました。

デイサービスセンターにて、訪問リハビリテーション事業所と連携し、自宅でも継続可能な機能訓練プログラムを検討し、利用者へ提案を行い、ADLの維持向上に努めました。

在宅サービス事業の利用者家族の不安軽減のために、看護職員が送迎に付き添うなど直接話ができる場面を多くつくりました。

近隣小学校からの依頼により、高槻荘職員が講師となり、教員30名に対し福祉研修を実施し、介護保険法のあらしや高槻荘の概要説明及び情報交換を行いました。



地域公益事業

役割のある生活を目指して

定期開催の「子ども食堂」や「高槻ますます元気体操」における高槻荘サポーターの担当量を増やし、役割のある生活を送っていただく一助となることができました。

生活困窮者を8名受入れ職場体験を実施し、そのうちの3名が一般就労することができました。



白島荘

小さなニーズにも
最大限のサービス提供を!!



事業施行概要

施設と地域が共存、協力し合える関係性の構築

地域サロンに月1回訪問し、地域ニーズやちょっとした相談の傾聴や、計5回の介護予防体操を通じ、白島荘を身近に感じてもらい、良好な関係性を築くことができました。

ステップアップ事業

地域共生社会への実現にむけて

10月から毎月第4日曜日に通所介護事業が休所している日に「光明の郷いきいき健康教室」を開催し、地域の元気高齢者を対象に介護予防体操や健康講座を行いました。

達成内容

10月から1月までの計4回開催し、合計42名の参加がありました。2月、3月は箕面市からイベント自粛要請があった為に中止しました。



重点項目

介護機器・介護ロボット等の活用

スライド可能なリフト付きシャワーキャリー1台を設置することで、移乗動作が減少。職員の介護負担軽減と利用者の不安感が解消し、安心・安全な入浴が実施できました。



人材確保と定着のための取り組み

白島荘子ども学習教室の充実を図る為、寄贈図書コーナーを設け、図書機能を充実し、長時間でも過ごしやすい環境を整え、施設見学者等から好評を得ました。

食事サービスの充実

①プリン食のテクスチャーを改良し、やわらか食のバリエーションを20%増やすことで摂食嚥下障害のある利用者にも見た目も美しく、美味しい食事の提供を推進しました。



②光明の郷ケアセンターでは、ご利用者へのサービス向上のため、3名の利用者に「夕食弁当サービス」を実施しました。

医療サービスの充実

①喀痰吸引等実地研修を5名修了され、白島荘において医療的ケアを充実させ、必要に応じて喀痰吸引の同意を頂きニーズに対応できる体制づくりをしました。

②今年度実績として11名の看取り介護を行いました。しかし、ICTを利用した死亡診断や外部医師による死亡診断等による看取り介護の促進は検討中です。

障がい者福祉サービスの推進

通所介護事業所において、慣れた環境でより長く生活できるように、障がい者、高齢者の枠を超えたサービスを提供するため「共生型生活介護」の指定を受けました。

障がい・保育の各福祉分野における専門的な研修の実施

障がい事業所の職員に対して、外部機関のコンサルテーションを計5回実施し、障がい特性の知識向上や困難事例の検討等を行い、利用者支援の向上に繋がりました。

地域公益事業

小さなニーズを大切に、支援の輪を広げる!!

既存のサービスでは利用する程ではないニーズに対して「ちょこっとお手伝い隊」として、地域サロンの送迎、電球交換、ごみ出しを計5回行い、利用者支援に繋がりました。



東大阪養護老人ホーム

みなぎる力を地域に、社会に。

事業施行概要

人とひと、人と社会、 笑顔をつなぐ仕組み作り

- 利用者の社会参加の促進に努めました。
- 利用者の健康で健全な生活が維持できるよう支援を行いました。
- 利用者・職員が地域と一緒に地域活動を実施しました。



ステップアップ事業

若年性認知症者への支援の取り組み

地域包括支援センター上小坂・相談支援センターよりそいの丘・OSJ工房よりそいの丘で連携し、若年性認知症の方に就労のサービス提供ができるよう支援を行いました。

達成内容

今年度3名の若年性認知症の方に就労継続支援B型のサービスを提供しました。

地域包括支援センター上小坂・相談支援センターよりそいの丘・OSJ工房よりそいの丘で、連携し若年性認知症の方の特性に応じた支援を実施しました。

達成内容

若年性認知症の方の受入方法を図式化し、包括・相談支援・就労支援との連携のもと支援方法のマニュアルを作成しました。各包括に配布予定にしています。

これからの高齢者施設の支援の在り方

養護老人ホームでは、ひとり3回以上の研修(虐待・アルコール依存症・看取り等)受講を目指し、これから必要とされる支援スキルの向上に取り組みました。

達成内容

年間を通し在籍している職員の約80%が、年間3回の研修受講を達成しました。DV被害者や依存症の方への支援について知識の向上を図ることができました。

研修後にアンケートによる理解度評価・意識調査を実施し受け身的な研修受講から、自ら学ぶ積極的な研修への転換を図りました。

達成内容

研修の中で意見交換やアンケートを実施。他者の考えを聞くことで意識と理解の向上を図ることができました。結果、看取りの実施に対して意欲的な職員が増えました。

サービスの開発にむけて

高齢者一人暮らし並びに夫婦二人暮らしのお宅を中心に訪問し、日常生活状況アンケートを実施しました。高齢者の生活支援サービスについての検討に繋ぐことができました。

達成内容

今年度1236件訪問を実施しました。アンケートにより独居高齢者の孤独死への不安等が把握できました。新サービス「鍵あずかり事業」の開発提案をまとめました。

重点項目

利用者の自立支援の推進

利用者一人ひとりに対し、社会参加の機会を増やし、自立支援会議でその確認を行いました。

養護老人ホームが提供する送迎サービス・軽作業・ホーム手伝い・クラブ活動等の社会参加の機会を今年度は、全体の51.7%の方が利用されました(複数利用を除く)。

社会参加の機会は、個性を重視し、お一人の方には趣味活動を生かすため奈良県の茶道教室へ通うための援助を行いました。



人材確保と定着のための取り組み

【デイサービス】5段階評価表を作成し、研修指導担当の外部受け入れにて、フォローアップを個人にではなくグループに実施。事業所全体の気づきに繋げることができました。

【地域包括支援センター】今年度は、研修対象者への受講理由の明確化をし、計17回の研修を受講。業務での活用度をチェックし、職員のモチベーションの測定を試みました。

障害福祉サービスの充実

【就労継続支援A型】個々の能力を伸ばす為に、新しい作業内容を指導できる体制を整えました。ミキサーやモルタルといった機器を使う作業にも取り組めるようになりました。

【就労継続支援B型】施設外就労を行える利用者2名を増やすことができ工賃が増えることにより、作業への意欲が高まりました。

【就労継続支援B型】若年性認知症の方への個別の関わり方を、支援マニュアルとして作成し、統一した支援を行うことができました。

【ヘルパーステーション ふれあい】令和元年10月に障害福祉サービス(居宅介護・移動支援)の指定を取得しました。今後適正なサービス提供に努めていきます。



医療サービスの充実

【養護老人ホーム】医療ニーズに応え、皮膚科往診医療を開始しました。皮膚科外部受診の90%に対応することができました。

【診療所】常勤医師配置の検討を行い人的配置の課題について精査することができました。

多様化する地域ニーズへの対応

【デイサービス】在宅生活応援サポーターを設立し、延べ11件のサポートを実施しました。ゴミ出しや台風接近時の戸締り確認、ボタン付け等の多様なニーズに対応しました。

【相談支援】積極的に地域に赴き、社会資源の収集を行いました。社会資源を網羅した独自のファイルを作成し、来所者が自由に閲覧できるよう事業所入口近くに設置しました。

地域公益事業

地域共生社会の実現に向けたネットワークの構築

担い手減少により、盆踊りができなくなった自治会と連携し、地域46名・近畿大学ボランティア等18名・入居者80名とともに養護老人ホームで盆踊りを開催しました。



永寿園とよなか

そのひとらしく、ここで・・・



事業施行概要

施設内から地域へ向けての活動

- ご利用者で運営・販売を行っていただくパン販売を、施設内販売から始め、地域交流室で実施することで、地域への販売に繋がりました。同時に飲み物など種類を増やしました。
- 施設周辺の清掃活動及び小学生の下校時の見守り活動をご利用者と一緒に行いました。地域への貢献とご利用者の社会参加の機会を設け、自立した生活支援へと繋がりました。

ステップアップ事業

入居者が残存機能を活かせる福祉機器の導入

入居者が持つ力を最大限活かし、安全安楽かつ自立支援に繋がる福祉機器とは何か、福祉機器展等への参加を通して検討を重ね、その活用に向けた機器の試行に取り組みました。

達成内容

リフト利用の方が、少しでも立位保持や足の踏ん張る力を活かしてもらえよう、マッスルスーツの機種を選定し、その実用に向けた準備を進め、次年度の導入としました。



重点項目

業務の効率化を図るための機器の活用

タブレットやスマホを活用した記録の簡略化や、職員の情報共有を図るAldioスマホアプリの試行を行いました。次年度の導入に向け、予算組みと活用方法を検討しました。

未来を見据えた新たな養護老人ホーム運営の取り組み

豊中市からの緊急短期入所の受入れに最大限努めました。また、豊中市のみにとどまらず、他市町村からの受入れも増やすことで、各市町村との関係強化に繋がりました。

保育園児自ら睡眠できる力の習得

布団を定位置にすることで園児が安心して寝ることができる環境作りに取り組みました。その結果、規則正しい生活習慣を身に着け、落ち着いて過ごすことに繋がりました。



利用者の自立支援の推進

パン販売や清掃、劇団、行事時の飲み物販売などの活動を行い、報酬は飲み物のチケットで還元しました。活動を通して役割を担い、活き活きと生活が出来るよう支援しました。



地域公益事業

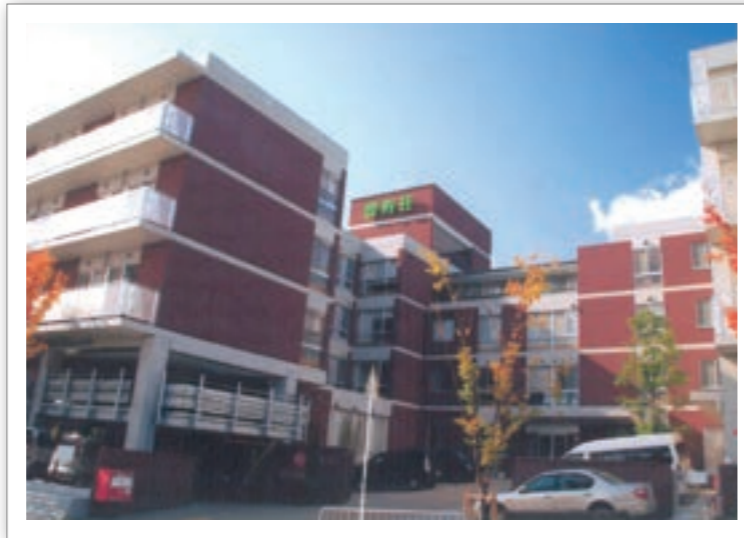
ボランティア等の組織化と支援活動

『地域を支える』を根幹に認知症の方及びその家族を支える為、認知症サポーター組織の方々と協力し、認知症カフェの運営を通して、人が集える場づくりに取り組みました。認知症カフェの運営のみでなく、東京校区福祉委員を中心に、地域交流スペースにて喫茶を運営して頂くことで、入居者や地域住民との交流の機会を設けることができました。



豊寿荘

「地域を共に」を実践する
～地域で働く職員として～



事業施行概要

施設職員、在宅事業職員にこだわらないオールマイティーな業務の促進

- 地域で働く職員としての意識を養うことを目的として、中堅職員が専門性を活かし、在宅ヘルパー派遣の兼務を行いました。
- 在宅業務を経験する事で、在宅生活の継続性を視野に入れたサービスを改めて考える機会にもなり、施設、在宅生活を共に支えられる職員としての意識を高める事が出来ました。

ステップアップ事業

元気高齢者の生きがいづくり

とよなか健康大学を前期後期の年2回開講し、近隣にお住いの元気高齢者へ生きがいづくりや仲間づくり、地域への活動につながる機会づくりを実施しました。

達成内容

とよなか健康大学卒業生へOB会発足の説明会を実施しました。また、「とよなかささえ愛ポイントプログラム」の登録会を実施し、地域活動へのきっかけづくりを行いました。

とよなか健康大学卒業生や在校生が地域の活動に参加する機会をつくりました。

達成内容

介護予防センター内での活動を始め、地域の祭や近隣のデイサービスセンター、施設でのボランティア活動を実施し、元気高齢者の生きがいづくりにつながりました。



重点項目

身体能力の維持

危険予測シートを用いた生活場面での環境チェックを行い、ご入居者に安全・安心な住まいの提案・改善を行うと共に介護予防にまつわる講座や体操の定期開催を実施しました。

口腔ケアや身体機能の大切さや効果的な福祉用具の利用等についての意識がご入居者自身にも高まり、身体能力の維持につながりました。



保育園における交流事業

①月に1度、原田介護予防センターで実施する「孫子老サロン」に保育士も参加し、参加される親子とのコミュニケーションを図りました。



②高齢者施設という特色を活かし、とよなか健康大学の卒業式で祝い披露、デイサービスセンターで季節ごとのお披露目会を実施し、高齢者と関わる機会を増やしました。

③菜園で育てた季節野菜は、収穫時、デイサービスセンターや施設利用の高齢者の皆様に見せたり、芋ほり参観では、親子で収穫し、様々な調理法で味を楽しみました。



危機管理意識の共有

前年度の重大事故の75%がケアハウスにおける事故で、その多くが居室環境によるものであり、居室環境チェックシートを用いて全ご利用者の居室環境の整備を行いました。

結果として、ケアハウスにおいては、法人の重大事故目標『前年度比30%減少』以上の34%減少を達成することができました。

また、その他事業所においても、法人及び豊寿荘での重大事故を速やかに共有し当事者意識を持ち重大事故防止に努めた結果、豊寿荘全体で前年度比36%減少を達成しました。

診療所内における訪問リハビリテーション事業の充実、発展に向けて

生活機能向上連携加算は月平均818名(前年比約22%up)、法人内デイサービスの機能訓練業務を支援しました。



また、ケアハウスご利用者の介護予防対策にも介入を開始しました。

地域公益事業

地域の課題解消に向けて

豊寿荘及びあいあい食堂を拠点に『地域のなかで働く施設職員の育成』をスローガンに、施設職員が主体的に地域の課題に取り組みました。

老人会等に介護に関する講習を行い、その講師を施設職員が担ったり、あいあい食堂で組織化した地域美化活動に施設職員が参加したりと施設職員が主となり活動を行いました。

また、施設職員が訪問介護員となり在宅でのヘルパーサービスを実施しながら、地域における課題抽出にも取り組みました。



万寿荘

まちごと・丸ごとプロジェクトの実現

事業施行概要

地域共生社会の実現

ご入居者へ地域活動に関する情報を提供することで生活の場を自分たちで活性化させる意欲を持って頂けました。今後も自立した生活の維持を支援していきます。



ステップアップ事業

よりそいプラザの充実

よりそいプラザの運営を、地域の婦人会やボランティア等主体型に移行していきます。

達成内容

毎週土曜日の開催が定着してきたよりそいプラザを、令和元年6月より地域住民主体型の自主的な運営に移行しました。今後も地域共生社会の実現に取り組んでいきます。

重点項目

利用者の自立支援の推進

地域の公園清掃活動や法人内及び民間事業所での就労支援に取り組みました。今後も自立した生活への意欲が向上できるよう個別ケアを重視した支援をします。

地域共生社会の実現に向けたネットワークの構築

利用者が楽しみにしているまんぶく食堂を自主事業で再開をし、憩いの場となっています。また、利用者の方が、自主的にボランティアとして食堂を手伝ってくれています。

地域公益事業

健康生活支援講座

地域住民対象で「高齢者の健康と安全」をテーマに月に1度実施。重度化の防止と在宅介護の抛り所となるよう様々な専門職による講座とふくまる健康体操を行いました。



河南荘

いつまでも自分らしくいきいきと

事業施行概要

地域のセーフティネットとしての役割を果たす

地域包括支援センターからの要請で、自宅を火事で失った方や家賃の滞納で住宅退去を迫られた方の受け入れをはじめ、ケアが必要な方の受け入れも積極的に行いました。



ステップアップ事業

介護予防・日常生活支援総合事業の実施

河南町の協力を得て通所型サービスBの実施に向け、実施場所の確保及び老人クラブ連合会への協力を要請する等の準備を行います。

達成内容

前年度から河南町との協議を進めており、今年度末に通所型サービスBの実施要項が完成しました。令和2年度には地域団体と共同実施に向け、取り組んでいきます。

地域住民が主体的に通所介護型Bを実施できるよう、プログラムを作成し、そのプログラムが円滑に進むように通所型サービスBを実施するための手順書を作成します。

達成内容

通所型サービスBの実施要項が未完成だったため手順書の作成には至りませんでした。現在河南荘で実施している百歳体操を含むプログラムの作成に取り組んでいます。

重点項目

利用者の自立支援の推進

今年度は河南荘入居者が和楽日の会へ2名登録されました。登録者は4名となり、美原荘での車椅子清掃に参加されています。町のサポート事業の会員にも2名登録されました。



災害発生時の備えのための取り組み

今年度も総合防災訓練を実施しました。受け入れマニュアルの整備を行い、集会所では16名の避難受け入れが可能です。今後も引き続き備えのための取り組み強化を図ります。



地域公益事業

生活困窮者受け入れのための取り組み

現在の生活保護者への減額内容を見直します。

10月の増税に伴い、年金生活者支援給付金の支給があったので減額内容変更については据え置いています。今後も生活保護者への補助金等の動向を見ながら検討していきます。

みずほおおぞら

このまちで「暮らす」
「働く」を応援します



事業施行概要

豊中市西部における事業の定着から発展へ

- オオゾラのブランド化や販路拡大により収益が上がり、前年度より事業の適正化に近づく事が出来ました。
- つながりルームを実際に使用し、他法人グループホームとの連携をする事により、スムーズに地域移行が出来る体制を整える事が出来ました。
- 行事・イベントの会議に地域住民の方に参加して頂き、地域ニーズの把握も出来る共同運営を行う仕掛けづくりを行いました。

ステップアップ事業

将来の経営感覚を持ったリーダー職員の育成

法人のリーダー養成自己啓発研修を受けた主任級職員が、施設で自己啓発研修の講師役を担い、受講生と共にOJTを含む人材育成を行いました。



達成内容

講師・受講生において自己啓発研修を重ねました。
次世代のリーダーを育成し、年度末に取り組み内容の報告会を実施し、受講生より2名の新たな主任を輩出する事が出来ました。



近隣農家との農福連携に向けて

自施設の畑にて、栽培、収穫、販売の活動を通し農福連携に向けた準備を行いました。利用者が農業に興味を示され、今後農家として就労したいと言われる声も聞かれました。また、近隣農家の方と話すことが出来、栽培方法を聞くことが出来ました。

達成内容

ご利用者1人1人の作業工程のアセスメントを行う事により、能力の把握が出来るようになりました。それぞれの能力に応じた工賃額をお渡ししています。



重点項目

利用者の自立支援の推進

- ①利用者一人ひとりに合わせたアセスメントが出来るようシートの見直しを行いました。
地域移行に特化したマイヒストリーという書類を用いる事で個々のアセスメント能力の向上を図りました。
候補地を探すことから始めたがニーズ合う候補地を見つける事は出来ませんでした。しかし、地域のホームに営業へ行き、業務連携を行う事で十分な部屋数を確保が出来ました。
- ②障害特性・能力に合わせたチーム編成を行いました。各利用者に明確な作業目標を持っていただく計画作成を行い、それぞれに担っていただく作業を増やすことが出来ました。
- ③排泄ケアの見直しにより29名中8名が布パンツへ移行する事が出来ました。オムツ・パット代年間35万円の削減を達成出来ました。
清拭タオルはリスタオルから使い捨てタオルに移行して10万円削減でき、陰部洗浄を基本とした排泄ケアの見直しにより、スキントラブルを減らすことが出来ました。

障がい者福祉サービスの推進

- ①近隣工場や事業所、また豊中市立第15中学校の購買部などの販路拡大を行いました。当初は500個ほどの生産量が、販売の多い日には700個前後まで伸びました。
- ②新たに施設内清掃を行うために、利用者個々の再アセスメントを行い、得意な作業に取り組んで頂きました。外部就労に向けて意識を高めるためにユニホームを作成しました。
今までにないポスティングや水路遠路清掃にも取り組み、工賃向上に繋がりました。前年度に比べ、平均工賃が2,000円から5,000円上げることが出来ました。
平均工賃20,000円は達成出来ませんでした。利用者様のうち最大21,673円まで工賃を伸ばす事が出来ました。



障がい・保育の各福祉分野における専門的な研修の実施

- ①作業環境の見える化を中心に、集団での作業、個別ブースでの課題、身体機能の向上に向けた取り組みを行いました。
事例集編纂には至りませんでした。作業環境の見える化を中心に個々の障がい特性に合った活動の提供を行うと共に支援上での課題に対する事例検討を重ねる事が出来ました。
- ②国立重度知的障害者総合支援施設のぞみの園の支援者養成現任研修を通して、重度障害者支援に必要な知識、技術、関係機関との連携の在り方を学びました。
OJT研修を繰り返し、統一した支援を行う意識改革を行いました。



介護機器・介護ロボット等の活用

スカイリフト使用を推奨し、今年度腰痛で休む職員も減り、ケア方法についてスカイリフトの使用案と実施が積極的に出来るようになりました。
見守り支援機器は、夜間の睡眠状態が不安定でセンサーマットを外すことが困難な方に対して使用し、センサーマット使用者を減らす第一歩となりました。



コンサルティングを活用した新たな経営手法の確立

備品倉庫内を整理整頓し、備蓄が必要な物品の選定を行い、物品の定位・定置・定量での管理を開始しました。
備品使用や発注時に残数が一目で判別するようになり、無駄な購入や備品を探す手間を削減することが出来ました。



地域公益事業

高齢入居者や地域を巻き込んだカフェ運営の実施

子育て世代が安心して子供を遊ばせられる場がない事に加え、高齢者の閉じこもりも危惧されておりました。施設と地域のマンパワーが連携し、多世代交流の場を形成しました。施設に来てもらうのではなく、施設が地域に出向くということに舵を切り替え、地域の自治会館とセンターにて machigurumicafé を開催しました。
特養入所者もcafé店員として働きました。結果、トータル20名の地域の子育て世代と高齢者の方がお越しになられました。



OSJ研修・研究センター

新たな発想で、全ての
職員の心、知識、
技術を一流に



重点項目

内部研修機能の強化

人材育成担当職員の活用に関するアンケートを実施し、人材育成担当職員ならびに法人職員の質向上に向けて検討し、次年度にeラーニングの導入へとつなぐことができました。

新規採用職員に教育期間を設け、スキルブックを活用することで個々に合わせた指導・育成を行いました。次年度に向け、より柔軟に対応できる教育期間を検討しました。

看護の質の向上を目的とする実践能力段階的システムについての研修を受講し、看護職員だけでなく、介護職員のキャリアラダーを作成し、標準化への取り組みの大きな一歩へと踏み入れました。

センター職員2名がアンガーマネジメント研修の講師を務められるようになったことで、法人研修だけでなく、施設からの研修依頼にも柔軟に対応することができました。

地域啓発機能の強化

介護ミニ講座を「暮らしに役立つ介護予防と健康」という身近なテーマに変更し、生活支援サポーター養成研修と合わせ、毎月開催の目標を達成しました。

総務グループと連携してセンター職員が就職フェアに参加したり、中学校で福祉講座を開講したりと、福祉・介護の魅力を発信し、新たな人材確保に向け活動しました。

福祉の資格のステップアップについてのリーフレットを作成し、介護ミニ講座で配布することにより、生活支援サポーター養成研修の受講に多くつながりました。

情報提供機能の強化

ホームページの活用により、外部研修、地域向け研修等の情報をタイムリーに発信できることで、スムーズな研修受講の流れが確立できました。

ホームページをより見やすく、有効に活用できるよう、新たな業者との交渉を重ね、次年度からの開設に向けて準備しました。

外部研修機能の強化

他法人からの依頼に応じ、講師派遣を行った。人材育成担当職員が自らのスキルアップのため研修受講し、法人内外問わず講師派遣できる仕組みづくりを行いました。

センターで実施していた、年3回の喀痰吸引等研修(第三号研修)の内1回を南部の光明荘で開催することで、法人内外問わず、遠方からも受講しやすい体制を整備しました。



研究・開発機能の強化

認知症ケア研究会を法人全施設で開催するようになったことで、施設単体ではなく、法人全体の認知症ケアの課題について検討できる機会となりました。

認知症ケア研究会に多職種が参加したことで事例検討内容に厚みが生まれ、より専門的な話し合いができるようになり、次年度の研究会への多職種参加の足掛かりとなりました。



事務局

法人設立50周年に向けて全力疾走!

事業施行概要

中長期経営計画の着実な推進

5つの基本方針に沿って施設とコミュニケーションを図りながら計画の進捗管理を行い、新たな取り組みも含めて計画の達成に向けて取り組みを進めました。



ステップアップ事業

「ECRS(イクルス)」による業務省力化の取り組み

各グループにおいて定例ミーティングを行ない、業務のムダ、ムラ、ムリをなくせる取り組みを実践しました。

達成内容

各グループにおいて業務の省力化は図れましたが、目標としていた前後の評価と報告書を作成するには至りませんでした。

重点項目

新たな取り組みの推進

通所リハビリテーション事業、居宅介護支援事業、地域包括支援センター事業を含む介護老人保健施設ががやきグループの開設に向けて人員確保等、準備を進めました。

箕面市での東部地域包括支援センター並びに(仮称)箕面市立ワークセンター小野原の開所に向けて施設と連携し準備を進めました。

人材確保の取り組み(外国人雇用の検討)

技能実習生の受け入れにおいて実習生が安心して介護や日本語の勉強ができる体制づくりに取り組みました。また入国後講習の実施準備も進めました。

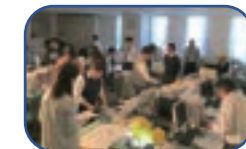
外国人雇用については、①外国人留学生の受入、②外国人技能実習生の受入を進めてきました。①については、2施設にて、2か国、計3名を受入れました。

②については、2つの管理団体と契約を結び、現地面接も含め2か国で計8名の方と契約を結びました。来日は令和2年度となるため、受入施設の選定及び受入研修を行いました。



災害発生時の備えの取り組み

地震や台風等でライフラインが途絶えること及び復旧に要する時間を想定した備蓄品の内容と数量の修正を行う等、災害時対応マニュアルの見直しを行いました。



給与制度の見直し

令和元年度においては①職員確保、②パートタイム・有期雇用労働法の改定に伴う、いわゆる、同一労働・同一賃金への対応、③時代に応じた諸手当の見直しを軸に検討しました。

外部コンサルティング機関とともに制度設計を行いました。職員への説明、理事会承認を経て、令和2年度より新しい給与制度に移行しました。

各施設への介護ロボット等導入支援と効果測定

デモ機導入施設対象に、5種別(送迎AI・見守り支援・音声入力・勤務シフト・移乗支援)において、導入効果・導入課題について分析シートを用いて効果判定を行いました。

収支計画の見直し

建物の中長期保全契約に直近必要な整備予定を加えた整備計画及び給与制度見直し、新規事業にかかる費用等を勘案して収支計画を更新致しました。

経営目標に沿った令和2年度当初予算を作成することができました。

令和元年度事業報告書

研修実施内容

職員研修

①研修実施内容

種別	研修区分	研修名	実施年月日	参加者	内容
法人研修	採用前・採用時	正規職員内定者施設見学会 及び交流会	R1.11.16	12名	・みずほおおぞら見学 施設の概要説明、施設内見学(生活介護・就労継続支援・特養) ・みずほおおぞら職員との意見交換会、交流会
		新規採用職員集合研修	R2.2.27~3.6(内6日間)	延べ132名	1日目 職場における合意形成、職員評価制度、接遇 2日目 人権、高齢者の理解、入浴 3日目 腰痛予防のための移乗介助術、身体介護の基本、車いす操作、移乗介助着脱、 環境整備、排せつ、入浴 4日目 着脱介助、排せつ介助、食事介助 5日目 救命講習、障がいの理解、認知症の理解、多職種連携、リスクマネジメント 6日目 記録、防災予防、メンタルヘルス・アンガーマネジメント等
		かがやき新規採用職員集合研修	R2.3.2~3.6(5日間)	延べ58名	1日目 法人概要・理念、かがやきグループについて、腰痛予防のための移乗介助術 2日目 接遇、人権、身体介護の基本、車いす操作 3日目 入浴、栄養ケア、研修センターの役割、高齢者の理解、食事介助 4日目 着脱介助、認知症の理解、個別ケアと記録の書き方、障がいの理解、メンタルヘルス、 アンガーマネジメント、多職種連携、リスクマネジメント 5日目 排せつ介助、救命講習、防災予防
		採用前・採用時基礎研修	H31.4~R2.3(内2日間)	延べ291名	・基礎研修、人権(理念、個人情報、虐待防止、身体拘束排除) ・接遇、ケアプラン、認知症、緊急時対応、介護技術等
	一般職	新人グループワーク研修	R1.10.30 R1.11.14	22名 20名	よりそい(10/30)、河南荘(11/14) ・共同作業(施設内環境美化意識の向上) ・グループワークを通じた連帯意識の向上
		フォローアップ研修	H31.4~R2.3 (採用後随時)	延べ515名	・個別面談を行いメンタルケアの安定を図ることで、モチベーションアップに繋げる ・個人の学びたいことや目標を確認し本人の希望や力量に応じた個別研修プログラムに繋げる
		法人内他施設体験研修	R1.7~11(内1日間)	31名	・勤務施設と同種の事業団施設を体験し、他施設の運営方法や業務の手順等の体験を通して 職員の振り返りと改善に役立てる
		OJT実践研修	R1.6.6~6.7(2日間研修)	14名	・OJTの基本、実践的な推進法とは ・日常の機会的指導から計画的意図的指導へ ・ロールプレイングを通して指導方法の習得
		法人内他施設他部署体験研修	R1.7~11(内1日間)	10名	・中堅職員が、他施設他部署の業務を実際に体験することで総合的に考える視点を養い、新たな気づき や発見を自施設のサービスに還元し、他職種との連携の重要性について改めて理解する機会とする
		メンタルヘルスクエア(セルフケア)研修	R1.7.3	22名	【講義・演習】 ・ストレスの仕組みやメンタルヘルスの理解を深め、心の健康作りについての意識を高める
		アンガーマネジメント研修	R1.7.3	22名	・アンガーマネジメントとは ・コアビリーフについて ・セルフコントロールの方法 など
		主任昇任者研修	H31.4.17	4名	【講義】・社会福祉法人の果たすべき役割について ・労務管理及び社会福祉法人としての運営や、 安定した事業継続への理解、中長期経営計画、職員評価制度について 等
		第1期人事考課者研修	R1.7.12	4名	【講義・演習】・評価基準の目録合わせ、指導記録表の書き方 ・中間面接の方法、ロールプレイ
		第2期人事考課者研修	R1.12.13	9名	【講義・演習】・評価の視点や理解を深め、評価基準の統一を図る
	指導職	指導力(コーチングスキル)養成研修	R1.5.28~7.23(内3日間)	16名	【講義・演習】・コーチング術の理解及び習得、具体的実践方法 等
		苦情対応研修	R1.12.5	15名	【講義・演習】・クレーム対応を身に着ける
		人事・労務管理研修	R1.11.7	16名	【講義】・ナレッジマネジメントとは ・ナレッジマネジメントの概要と基礎理論 ・ナレッジマネジメントの活用
		財務管理研修	R1.11.7	17名	【講義】・会計管理の基礎、税務の基礎 ・事務スケジュールなどの基本会計や担当者が行う 事務等、管理者が知っておくべき概要 ・財務における内部統制のポイント
	管理職	ハラスメント研修	R1.9.2	15名	【講義】・職場のハラスメント防止に向けて
		メンタルヘルスクエア(ラインケア)研修	R1.9.2	15名	【講義】・部下のこころの動きやストレスへの気付き
		人事考課者研修(更新)	R1.9.2 R1.11.7	13名 23名	【講義】・人事考課の基本のおさらいとポイント
	指導者	リーダーシップ研修	R1.10.10	7名	・リーダーとしての役割と心構え ・仕事を円滑にすすめる方法 ・目標設定とコミュニケーションスキル
		個別研修	H31.4.1~(随時)	14名	【講義】・職種変更などで個別に生じた課題に対して、個別に育成を図る
	自己啓発研修	介護支援専門員 受験対策集中セミナー	R1.6.20~8.22(計3日間)	延べ30名	・介護支援専門員受験に向けての重点内容対策
		介護福祉士 受験対策セミナー	R1.9.5~11.14(計3日間)	延べ32名	・介護福祉士資格試験の重点内容対策
		介護福祉士 受験対策セミナー(直前対策)	R1.12.10~R2.1.10(内2日間)	延べ27名	・介護福祉士資格試験の直前対策
	養成研修	リーダー養成自己啓発研修~初級編~	R1.6.12~R2.2.14(内9日間)	5名	【講義・演習】・労務管理、財務管理、運営管理について ・法人内部監査同行 ・演習を通しての自己課題設定、自施設課題取り組み
認知症ケア指導者研修		R1.5.10	18名	【講義・演習】・認知症への理解及び問題解決に向けたアプローチ ・老年行動学からみる認知症の人のこころ ・「認知症相談・対応のポイント」を基に事例検討	

種別	研修区分	研修名	実施年月日	参加者	内容
法人研修	意識向上研修	アンガーマネジメント研修	R1.7.3 R2.1.21	21名 10名	・アンガーマネジメントとは ・コアビリーフについて ・セルフコントロールの方法
		障がいについての理解 ~高次脳機能障害者への支援~	R2.1.21	19名	・障がいについての基礎知識 ・高次脳機能障害について ・高次脳機能障害者の接し方・コミュニケーションの取り方 ・工房「羅針盤」での取り組み 等
		介護技術向上研修 ~身体拘束ゼロ及び不適切ケアへの取り組み~	R1.6.17 R1.7.22 R1.9.9 (3日間)	10名	【講義・演習】・身体拘束廃止と不適切ケアに関する認識と知識を深め、実践的手法を習得し、 身体拘束廃止の取り組みを指導する人材の養成
		介護技術向上研修 ~フィジカルアセスメントを踏まえた看取りケアについて~	R1.12.20	6名	【講義・演習】・フィジカルアセスメントに関する認識と知識を深め、看取りケアの基本的な考え方を習得する ・死生観について
		介護技術向上研修 ~施設における看取りケアへの取り組み~	R1.11.19	17名	【講義・演習】 ・看取りケアに関する認識と知識を深め、実践的手法を習得し、介護現場において実践できる人材の養成

②外部派遣研修実施内容

研修区分	研修名	実施年月日	参加者	内容
外部派遣研修	他法人施設研修	R2.2.5~2.8(3泊4日)	4名	【体験実習・見学】 ・他法人の運営管理や施設ケアの取り組み内容等を学ぶことで、職員のスキルを高めると共に、多角的な 視点を養うことで、自施設のケア内容の見直しや改善取り組みへの働きかけ、サービス向上を目的とする
	実務者研修教員講習会	R1.5.15~R2.3.12(内8日間)	2名	【講義】 ・実務者研修の講師を行うに当たって、必要な知識を修得する
	認知症介護実践研修(実践者研修)	H31.4~R2.3(内8日間)	7名	【講義・演習】 ・認知症介護技術の向上を図り、認知症介護の専門員を養成
	認知症介護実践研修(実践リーダー研修)	H31.4~R2.3(内11日間)	2名	【講義・演習・施設実習】 ・実践研修を修了した者が、リーダー的な役割を持った認知症介護の専門員を養成
	アンガーマネジメント入門講座についての勉強会	R1.6.22	1名	【講義】 ・アンガーマネジメント入門講座の実施に向け、ノウハウを学ぶ
	実習指導者講習会	R1.6.19~7.30(内5日間)	1名	施設において実習生の受け入れを行うにあたり、 指導する職員としての専門的知識をより身につける
	人権リーダー養成研修	R1.7.4~9.12(内3日間)	1名	【講義】 ・人権尊重と人権侵害防止に向けて、人権リーダーの養成を図る
	さまざまな人権問題に関する研究会	R1.7.9	1名	【講義】 ・地域福祉の推進における社会福祉施設の役割について考え、人権問題に関する理解を深める
	日本人の食事摂取基準(2020年度版)研究会	R1.7.15	2名	【講義】 ・高齢の方等に適した食事を提供するため、最新のデータに基づいた食事摂取基準を知ることで、 栄養士としての専門的知識を身に付ける
	アンガーマネジメント叱り方トレーナー養成講座	R1.7.27	1名	【講義】 ・アンガーマネジメント叱り方入門講座を開催できる、アンガーマネジメント叱り方トレーナーを 養成する
	対人関係構築研修 ~円滑なコミュニケーションのためのスキルを習得する~	R1.7.31	1名	【講義・演習】 ・介護福祉の現場及び職場の質の向上の基本となる対人関係の構築方法について学ぶ
	京都府看護協会研修 クリニカルリーダーの活用と実際	R1.8.24	2名	【講義】 ・看護職員の育成・指導のため、看護職員の実践能力の標準指標となる クリニカルリーダーの活用方法を学ぶ
	技能実習指導員講習	R1.10.8 R1.12.10	7名	外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に係る知識を学ぶ
	外国人介護職員の雇用について ~外国人介護職員と一緒に働いてみませんか~	R1.12.11	1名	【講義】 ・外国人介護職員の雇用に備え、円滑な受け入れを行うための雇用について、 また、これからの受け入れや定着支援につなげることについて学ぶ
	全事協近畿ブロック 社会福祉事業団 専門性を向上させる研究会	R2.1.10	2名	【講義】 ・専門職としてのロジカルシンキングを学び、職場のコミュニケーションの円滑化、 伝える力を高める
	大阪府看護協会研修 クリニカルリーダー(日本看護協会)の推進(実践編) ~施設がJNAリーダーを導入するために~	R2.2.19	1名	【講義】 ・看護職員の育成・指導のため、看護職員の実践能力の標準指標となる クリニカルリーダーの実践的な活用方法を学ぶ

MEMO

職員研修

③外部研修実施内容

研修区分	研修名	実施年月日	参加者	内容
大阪府指定	介護職員初任者研修	R1.5~R2.2	38名	【講義・演習】 ・介護員としての相当の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにする
	介護福祉士実務者研修	H31.4~R2.2 (11月開講コース(2~3月分)延期)	30名	【講義・演習】 ・介護福祉士習得を目指し、医療的ケアも含めた、介護技術を習得し、実践できる人材の養成
	大阪府相談支援従事者研修 (2日課程・5日課程・現任)	R1.10~11 R2.2 (現任演習2日程延期)	757名	【講義・演習】(5日課程・現任研修) ・障がい福祉サービスの相談支援事業所における相談支援専門員の養成 【講義】(2日課程) ・サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の養成
	大阪府サービス管理責任者等研修	R1.8~9	608名	【講義・演習】 ・障がい福祉サービスにおけるサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の養成
大阪府登録	喀痰吸引等研修(第二号研修)	H31.4~R2.3	4名(基本) 3名(実地)	【講義・演習】 ・施設で喀痰吸引等が必要な利用者に対して、知識を深め、技術を習得し実践できる人材の養成
	喀痰吸引等研修(第三号研修)	H31.4~R2.3	4名(基本) 9名(実地)	【講義・演習】 ・在宅や障がい者支援施設で喀痰吸引等が必要な利用者に対し、知識を深め、技術を習得し実践できる人材の養成
堺市受託	堺市認知症介護基礎研修	R1.6.3 R1.10.8	50名	【講義・演習】 ・認知症の基礎的な知識・技術とそれを実践する考え方を身につけ、基礎的な認知症ケアを行うことが出来るよう養成
	堺市認知症介護実践者研修	R1.5.7~7.16 R1.9.2~11.19	112名	【講義・演習】 ・認知症介護技術の向上を図り、認知症介護の専門員を養成
	堺市認知症介護実践リーダー研修	R1.11.20~R2.2.19	29名	【講義・演習】 ・実践リーダーとしてマネージャートレーナーとしての知識、技量の向上を目指す
	堺市認知症対応型サービス事業 開設者・管理者研修	R2.2.4~2.5	30名	【講義・演習】 ・堺市認知症対応型サービス事業開設者・管理者の養成
	堺市小規模多機能型サービス等 計画作成担当者研修	R2.2.14、2.17	15名	【講義・演習】 ・堺市小規模多機能型サービス等計画作成担当者の養成
	堺市認知症介護 実践リーダーフォローアップ研修	R2.2.13	7名	【講義・演習】 ・リーダー研修修了者のスキルアップを図るため、最新知識の習得や実践報告を行う
	医療従事者向け・看護職員向け 認知症対応力向上研修	R1.12.11~R2.1.23 (うち1日間or3日間)	26名	【講義・演習】 ・認知症に関する基本的知識や実践的な対応力を習得し、 医療機関内等での認知症ケアの適切な実施とマネジメント体制を構築する
	市民向け認知症対応力向上研修	R2.1.29	61名	市民の認知症に関する知識の向上を図ることで、 認知症のある人もない人の安心して生活できる街づくりを目指す
堺市訪問介護事業者 サービス提供責任者基礎研修	R1.12.6~R2.1.7	70名	【講義・演習】 ・堺市内における訪問介護事業所のサービス提供責任者に必要な基礎知識を習得する研修	
豊中市	生活支援サービス従事者研修	R1.5.13~R1.12.18 (内2日間×5回)	53名	【講義・演習】 ・福祉・介護に関する知識や技術を習得する養成研修を行い、 高齢者等への生活支援サービスを行う担い手を養成する
	生活支援サポーター養成研修	R1.6~R1.10 (3回中止)	13名	【講義・演習】 ・福祉・介護に関する知識や技術を習得する養成研修を行い、 高齢者等への生活支援サービスを行う担い手を養成する

④地域啓発研修実施内容

研修区分	研修名	実施年月日	参加者	内容
	介護ミニ講座	R1.6.27~9.26 R1.11.18~R2.2.6 (2/20延期)	11名 19名	【講義・演習】 ・介護の資格を持っているが介護の仕事に従事していない方や、介護の仕事に興味のある方に、 介護の知識や技術の基礎を伝え介護の仕事に興味を持ってもらう
公開研修	介護支援専門員 受験対策集中セミナー	R1.6.20~8.22 (計3日間)	延べ6名	・介護支援専門員受験に向けての重点内容対策
	介護福祉士 受験対策セミナー	R1.9.5~11.14 (計3日間)	延べ15名	・介護福祉士資格試験の重点内容対策
	介護福祉士 受験対策セミナー(直前対策)	R1.12.10~R2.1.10 (内2日間)	延べ12名	・介護福祉士資格試験の直前対策
	苦情対応研修	R1.12.5	6名	・クレーム対応を身につける